



「つかみどころのないまち」

「さまざまな要素が混在するけれど、決め手に欠くまち」

所沢はこれまで、まるで特性のない、

無個性なまちであるかのように語られ続けてきましたが、

はたして本当にそうなのでしょうか？

もくじ

市長あいさつ …… 6

Prologue …… 8

ビジョン策定にあたって(目的とねらい) …… 9

Chapter 1. 文化芸術Sceneの現在を明らかにする …… 11

所沢市の文化的特性

所沢市における文化芸術活動を俯瞰する

Chapter 2. 未来の文化芸術Fieldを描く …… 19

所沢市の文化芸術に欠かさざる4つの視点

20年後の所沢市の文化芸術分野を見晴らす

Chapter 3. Visionを体系的に整理する …… 31

ビジョン基本理念と体系

実現に向けた事業施策

ビジョンの推進と検証体制

epilogue …… 59

TOKOROZAWA MAP …… 64

資料編 …… 66

- (1) 所沢市の文化芸術振興に関するアンケート調査結果
- (2) 所沢市文化芸術振興ビジョンアドバイザー設置要綱
- (3) 所沢市文化芸術振興ビジョンアドバイザー名簿
- (4) 所沢市文化芸術振興ビジョン庁内検討委員会名簿
- (5) 所沢市文化芸術振興ビジョン庁内検討委員会ワーキンググループ名簿
- (6) 所沢市文化芸術推進会議条例
- (7) 策定経過

特別編 …… 04

「所沢市の文化芸術ってこんなにすごい！」
(分野別データベース)

▶▶ 裏表紙から



いじめごやし

「文化芸術のビジョンを作りたいのです。」

担当課が言ってきた。既に市では、市民の文化活動には補助金を出して応援をしている。だから、それを厚くすれば事足りるだろうに、こともあろうか担当としては、文化芸術を市が如何に推進するか、そのビジョンを示したいのだという。教育委員会の所管であった文化の分野に芸術をくっつけて、保存から振興へ、新たに文化芸術振興課を設置したのは、こちらの責任ではある。しかし、大それたビジョンまでは想定していなかった。しかし、これも新たにスタートした部署のやる気の表れである。ええいつ、そこまで言うなら、どうぞやってみてください。

それからというもの、担当部署の艱難辛苦は始まった。文化とは何か、芸術はどこまでを指すのか。対象とする人々は誰で、どんな活動を想定するのか。また、市としてどこまで関わり、推進するつもりなのか。でも考えを進めるほどに、所沢の文化を考えることは、とりもなおさず、所沢の特質を考えること、つまり、所沢とは何なのか、を考えることであり、それを抜きにしてビジョン策定はできないように思われた。

時を同じくして、あの文化の会社「KADOKAWA」が、所沢に来てくれることになった。創立70周年のエポックに、世界に『クールジャパンの文化』を発信する拠点として、数ある都市の中から、ここ所沢を選んでくれたのである。そして、程なくKADOKAWAも、なぜ所沢に移るのか、なぜ所沢なのか、角川

源義氏から続く社風に立ち返りつつ、所沢との新たな物語を編む作業に入られた（ように私には見えた）。

新たな何かを生み出す（創造）には物語が必要で、それが、また新たな文化を形作るのだ。つまり、文化創造の旅である。

2つの動きはほとんど同時に起こったものであった。きつと今、所沢市は「文化」を正面に据えて考えねばならない時期に来ているのだ。

それから2年、紆余曲折、試行錯誤やいろいろなこと、ものを経て、このビジョンは策定された。本ビジョンがそんな諸々を包含しながら、今の、そして、これからの所沢市民にとって、市民の文化芸術の振興にとって、善きものであるよう願ってやまない。

結びに、本ビジョン策定にあたり多大なご尽力を賜りました「所沢市文化芸術振興ビジョンアドバイザー」の皆様をはじめ、「文化芸術に関する市民意見交換会」、「パブリックコメント」などで貴重なご意見、ご提言をお寄せいただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

所沢市長 藤本正人



「所沢」とは いかなる場所なのか…

所沢を語る言葉としてこれまでさまざまな表現が使われてきましたが、とりわけ繰り返言われてきたのはこの文句ではないでしょうか。曰く「つかみどころのないまち」、あるいは時として「さまざまな要素が混在するけれど、決め手に欠くまち」。こうして、まるで特性のない、無個性なまちであるかのように語られ続けてきたので、これではまちに愛着の湧こうはずもない、と折に触れて思ったりしたのでした。

会と広場、公園という絶対的存在¹を思わせる素晴らしい空間です。さらに、200種もの野鳥が飛び交うみどりのオアシス「狭山丘陵」。傍らの狭山湖では富士山を眺めながらの落日が楽しめます。そこに新宿・池袋からわずか1時間程度で訪れることができるアクセスの良さ、これを魅力と言わずして何と申しましょう。それは景観ばかりではありません。駅前であられるストリートミュージックやまちの至る所で行われているドラマの撮影、おまけに野外彫刻やコスプレ撮影会まで…

にも、「観る」、「聴く」、「創る」、「演じる」といった多様な要素が足もとに満ち溢れていたのです。

つまり、芸術が「多様性を巡る行為」であるとすれば、私たちの住んでいるこのまちこそが、さまざまな選択を可能とするアーティスティック(芸術的)な場所である、と言いつけるのではないのでしょうか。

だから、私たちは、そろそろ自信を持って周りに伝えていかなければならないと思うのです。「…『所沢』は、確かに大きな顔・貌²で目立つた姿はしていないかもしれませんが、でも、これからは、ここで住んでいる誰もが暮らしの傍らで『好きなこと』と『楽しいこと』を発見し、自分の生活に夢中になっていく、そんな可能性を秘めた、住み続けるにふさわしいまちなのです」と。

※1：アニメやゲームなどの登場人物やキャラクターに扮する行為を行うこと

prologue

ビジョン策定へと踏み出す前に

良く見てみれば、まちのど真ん中に50haという広大で豊富なみどりに包まれた公園を持つまちがどこにあるのでしょうか。確かにないことはありません。近隣では相模原や立川などに同様の公園が存在します。

ただし、公園の傍らに文化の殿堂、所沢市民文化センター・ミュージズ(以下「ミュージズ」という)が隣接して醸し出す風景は唯一無二のもので、思わず散策せずにはいられません。まるでどこかヨーロッパの一風景(教

人々が落ち着いて暮らせるまちであることは確かです。かつては郊外都市として有数の人口を抱えるベツドタウンでした。そしてある時は「県南西部の商都」という称号まで与えられ、商業活動を全面に押し出して賑わいのまちをアピールしていたこともありました。

ところが、成熟社会となつて一通りの出来事が通過していった現在、私たちのまちを改めて振り返ってみると、「食べる」、「働く」、「寝る」といった生活に欠かさざる要素以外

ビジョン策定にあたって

●目的とねらい

辞書で「文化」を探ってみると、さまざまな説明が並んでいます。「人間の生活様式の全体」などという幅広いものから、「民族や社会の風習・伝統・思考方法・価値観などの総称」というように、やや具体性を伴って説明しようとするものまで。共通して言えるのは人の全ての営みから、その活動の総体を大きく捉えようとする「モノの見方」であると考えられます。しばしば「文化」という言葉の対岸に「文明」という言葉が置かれ、そちらは人の生活の知恵により生み出された技術・構築物・情報・社会・経済といった活動が守備範囲とされることに対して、「文化」はもつとニュートラルに人の生活を見つめ、そこに認められる形や決まりごと、すなわち幅広く人の示した足跡までを取り込んで対象としているかのよう感じます。

たとえば、この「所沢」では古くから糧³と呼ば

れる具(主に茹でた野菜)と一緒に食べるうどんのことを「糧うどん」と呼び、食べられてきた歴史的事実があり、それは今日では地域の食文化における代表的存在として広く喧伝されています。実のところそのルーツを遡れば、かつて水の乏しい農村地帯であった「所沢」において陸稲・小麦の生産が圧倒的であった事実の中で、祭日や祝日など特別な行事が行われる日に食べられてきたという慣習の積み重ねに因ることが見えてきます。

つまりは人の営みの繰り返しというものが土地にふさわしい「型」を作り、その時間的堆積のなかで文化の「器」にまで至らしめたということかと思えます。そのように、文化的なものとは、こゝと生活において日常の狭い路地や細い水脈から汲み上げられて、結果的に力強い奔流へと導かれる流れのようなものなかもしれません。

「所沢市文化芸術振興ビジョン」(以下「ビジョン」

今後の所沢市の新たな文化芸術振興策の中長期的な方向性

を示すため、「所沢市文化芸術振興ビジョン」を策定します。ビジョンでは、本市の現状や地域特性、市民感覚などを整理した上で、文化芸術振興の基本理念を定め、その理念に基づき取り組みの方向性を示します。

という。においては、広範に及ぶ文化芸術活動のすべてを見尽くし、その行方を示唆しようなどという勇ましきは持ち合わせていません。また、そのことがここで取り扱うべき主要なテーマでもないと考えます。

本ビジョンを策定する目的は、所沢地域で人々



手打ちうどん

- 所沢市の文化的特性
- 所沢市における文化芸術活動を俯瞰する

文化芸術Sceneの現在を 明らかにする



秋の狭山丘陵

がこれまでさまざまに実践し蓄積してきた文化芸術活動の現状を振り返りつつ、現在から将来にかけて予想される環境的な条件を整理しながら、この先のあるべき姿と方向性を明らかにしていくというものです。そのことにより、所沢に住み暮らす人々にとっての文化芸術との関わりと今後の展望が見通しの良いものとなり、心豊かに生活に潤いを感じながら暮らせるまちになるよう目指していきたいと考えています。

本市においては、長らく市民の文化活動を側面から支援しつつその育成に努めてきたという実態がありました。ここで改めて平成27年度に「文化芸術振興課」という組織を立ち上げて、文化活動に対する支援を積極的に展開していくこととなりました。それは本市のまちづくり、今後の郊外都市としての趨勢をかけたコンセプトの検討において、「文化」や「みどり」といった、いわば市

民にとっての魅力づくりをいかに充実させ発展させていかなければならないか、という将来課題そのものと密接につながっているものです。

その一方で、本市においては現在東所沢エリアで(株)KADOKAWAとの協定に基づく「COOL JAPAN FOREST」構想^{※1}が進んでおり、これまでは主導的に行政が担ってきた立場を、今後は民間と分かち合いながら、文化と自然が共生した新たなまちづくりへの展開が予想されています。さらに、所沢・飯能・狭山・入間・日高などの県南西部地域が一体となつての魅力ある地域づくりへの期待も高まっているところ。こうした中であつて、本市においても改めて自らの文化芸術の姿がどのような形をしているのかを把握し、今後の魅力あるまちづくりにどう反映させようとしているのかが問われているのです。そうした点も含めると、内なる「市民文化」と外に向けて発信する「都市文

化」^{※2}、その双方のニーズ(要求)を満たすべく、ビジョンの中で本市の文化芸術分野での将来の方向性を明らかにしていくことは容易なことではありませぬ。しかしながら、この機に改めて足下を見つめ直しつつ、将来のこのまちのあるべき姿に想いを馳せていくことは決して価値のないことではないと思つたのです。

2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、国を挙げて「文化・観光立国」を標榜^{ひょうぼう}して多くの外国人訪問者を迎え入れようとしている流れを踏まえつつ、次世代につながるレガシー(贈り物)の創出を呼び掛けています。この所沢においても、文化芸術活動がしっかりと地域に根を張つて、人々の暮らしがより豊かなものとなっていくことを願わずにはいられません。

※1

COOL JAPAN FOREST構想…所沢市と(株)KADOKAWAが、共同プロジェクトとして取り組んでいる、文化の力でまちづくりを進める構想

※2

「市民文化」と「都市文化」という、固定化された概念枠組みは存在していません。しかし、将来の限定的な資源配分や施策展開を巡って重要な検討要素であることに鑑み、この言葉に一応の定義を与え記述を進めていくものです。

【市民文化】

市民自らが個人または団体において参加、実践している文化活動を指します。創作から展示や出版に至る「有形」なもの、練習から発表(演奏・演技など)に至る「無形」なものがあるほか、広義には優れた文化芸術に接する鑑賞団体などもこれに含まれます。また、展示・出版・発表機会に至らず、創作・学習過程(カルチャースクール・お稽古事など)をもつて「市民文化」活動と称する事例は少なくありません。「市民文化」の多くは自己充足、自己鍛錬を目的として活動しているものですが、発表機会を通じて高いクオリティと評価、集客力を持つに至ったものは、後述の「都市文化」にまで昇華し、有効なシティセールスのコンテンツに値します。

【都市文化】

「市民文化」に端を発しながら、クオリティや専門性が高く、市域を超えた発信力で広く伝播し、多くの人々を魅了する文化芸術活動や、自治体などが「我がまちの文化」と称して戦略的に創造、市外・県外に情報発信し、その魅力を通して、市の知名度アップやまちの活性化を図る優れた有形・無形のコンテンツを総じて「都市文化」としています。地元起源を持たぬ新参の文化が目目される事例もありますが、その多くはまちの地勢や歴史、あるいは成熟した「市民文化」の上に成り立ち、人々の理解や誇りを背景に強力なブランド力を形成し、地域経済やまちづくりの状況とも深く関わりを持ちます。



6	5	1
7		3
8	4	2

1.東川の桜 2.比良の丘 3.多聞院 4.ゆり園
5.淵の森 6.ひまわり畑 7.茶畑 8.狭山湖

所沢市の文化的特性

Cultural characteristics of Tokorozawa

ビジョンは、本市の文化の特質を見つめ、未来に向かって目指すべき都市イメージを明らかにするとともに、本市の文化芸術振興策に関わる中・長期的な方向性を示す基本的な指針となるものです。その実現のためには、本市の文化的特性を活かし、文化、芸術、産業、観光、教育機関などが複合的につながり、所沢の持つ魅力を最大限活用する必要があります。

■恵まれた文化資源

航空記念公園、狭山丘陵、狭山湖を有し、遠く富士山を望める抜群のロケーションと都心からのアクセスのよさ

本市は、武蔵野の面影を残す雑木林、江戸時代から続く三富新田を始めとする農耕地、かつて鎌倉街道の要衝として栄えた宿場町など、歴史と文化に育まれた風土と豊かなみどりに恵まれています。中でも、園内に飛行機の機体や航空発祥記念館があり、文化の殿堂「ミュージズ」が隣接している「航空記念公園」、「となりのトトロ」の舞台とされている「狭山丘陵」、ダム湖100選にも選ばれた美しい湖である「狭山湖」は、本市の3大名所です。山並みの間から見える美しい富士山と季節をかえて映える狭山湖のハーモニーは本市の景観的シンボルとなっています。

ダム湖100選にも選ばれた狭山湖



一方で本市は、都心から30km圏内の立地で、約一時間のアクセスの良さから東京とのつながりも深く、人口34万人の県南西部地域の中心都市として発展してきました。

個性を持った文化施設があるまち

本市の文化芸術の拠点「ミュージズ」は、平成5年に航空記念公園と隣接して3つのホール及び展示室などを擁する複合文化施設として建設されました。施設のホールは分棟型となっており、大ホール（2002席・クラシック向きコンサートホール）、中ホール（798席・舞台演劇向きホール）、小ホール（318席・室内楽向きホール）、展示室（400㎡…美術展向きスペース）とそれぞれに特徴があります。大ホールには国内最大級のパイプオルガンを備え、東京近郊において未だ突出した個性と機能を持った文化施設として位置付けられています。

また、「のだめカンタービレ」、「相棒」などテレビ・映画のロケ地としても広く使用されています。

日本初の飛行場が開設された歴史的な背景を備えたまち

明治44年にわが国最初の飛行場が所沢の地に開設されました。明治・大正期における飛行機の持つイメージはまさに近代文明の象徴であり、飛行場の開設が所沢の知名度を飛躍的に高め、川越鉄道（現…西武新宿線）、武蔵野鉄道（現…西武池袋線）の開通なども重なり、人口が急増しました。また、日本航空史上で最初の航空機事故の犠牲者が出たのも、所沢の地でした。

この歴史的な経緯により所沢は「日本の航空発祥の地」と呼ばれており、飛行場であった場所には航空記念公園が造られるなど、かつての面影がまちな記憶として現在も残っています。

■多彩な人材・企業・団体

文化芸術にかかる教育機関がキャンパスを置く文教都市

本市には、日本大学芸術学部、県立芸術総合高等学校という文化芸術系教育機関がキャンパスを置き、多くの学生が学んでいます。また、卒業生の中にも著名な方々を多く輩出しています。

日本大学芸術学部は、「写真」、「映画」、「美術」など8学科からなる文化芸術系大学であり、県立

芸術総合高等学校は、「美術」、「音楽」、「映像芸術」、「舞台芸術」の4学科からなる日本初の芸術学科だけによる総合高校です。そうした文化芸術系の教育機関が市内に存在するという特性を活かし、同じく市内の早稲田大学、秋草学園短期大学とも連携しながら、文化芸術活動を活性化することで、魅力あるまちづくりにつなげていくことが期待されます。

世界に名だたる文化芸術系の民間企業があるまち

本市には、世界に名だたる文化芸術系の民間企業が存在し、また進出を予定している企業もあります。世界シェア20%を占める天体望遠鏡をつくらしている光学機器メーカーである「ビクセン」、世界の著名なオーケストラ・プレイヤーたちを選ばれるフルートメーカーである「村松フルート」があり、出版事業、映像事業やさまざまな「コンテンツ事業」を展開する「KADOKAWA」も進出を予定しています。そうした企業などと連携しながら施策を推進することが、文化の香り漂う魅力的なまちづくりに貢献するものと考えています。

市民の文化活動が活発であるまち

本市では、市内まちづくりセンター（公民館）の施設を拠点として、文化芸術活動が盛んに行われ、年間延べ93万人（平成27年度実績）が利用しています。また市内で音楽、演劇、美術、文学、茶

道、華道、囲碁、将棋などの文化芸術活動を行っている各連盟により組織された「所沢市文化団体連合会」は、所沢市文化祭として、ミュージズなどを会場に20以上の催しを毎年8月から翌年3月にかけて開催し、来場者は延べ1万9千人（平成27年度実績）のぼります。

さらに、日本最初の飛行場跡に開設された航空記念公園を会場としている「市民文化フェア」、市民の音楽活動である所沢市管弦楽祭、所沢市民合唱祭、「所沢で第九を」演奏会、所沢市吹奏楽祭の開催など、拠点施設を中心に多くの市民文化活動が行われているとともに、市民に優れた文化芸術に接する機会を創出しています。民族芸能の分野では、重松流祭ばやしや岩崎獅子舞が、本市の歴史的財産として、各地域の囃子連や保存団体によって、今日までいきいきと伝えられています。



文化芸術の拠点「ミュージズ」

※1…コンテンツ事業…放送・映画・音楽・マンガ・アニメ・ゲームなどのような知的生産物について、その制作・管理・提供にかかわるビジネスのこと。

所沢市における文化芸術活動を俯瞰する

An overview of our cultural and artistic activities

所沢市における文化芸術活動を市制施行後から現在まで振り返り、これまでに、本市で展開されてきた文化芸術活動全体を改めて見渡し、本市を取り巻く現状と課題を明らかにしていきます。

市制施行後における文化芸術活動

文化の形成はその時代に生きる人々の叡智と努力によって積み重ねられてきました。本市における文化芸術活動も市民を中心として多岐にわたる長い年月を経て育まれながら、多様な文化芸術事業を展開してきました。

市制施行後間もない昭和27年には、前年に開園したばかりの「ユネスコ村」を会場として「子ども写生大会」が開催されました。現在も、会場を「西武園ゆうえんち」に替え、全国的にも例のない規模の写生大会として継続されています。昭和30年には、教育委員会による、文化の日を中心とした「教育週間行事」が実施されました。これは現在の所沢市文化祭の前身にあたるもので、「市民教育音楽の夕」、「学校音楽コンクール」などとともに、「第1回俳句大会」、「第1回短歌大会」などが開催され、今日まで続く文化芸術活動の礎

となつていきます。

このように、本市のこれまでの文化芸術活動の多くは、市民を中心として、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものにとらえた社会教育活動の一環として、世代を超えて引き継がれ、育まれてきました。

高度経済成長から成熟社会へ (余暇活動から「自分探し」へ)

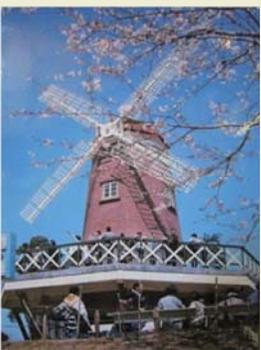
文化芸術活動が活発になると、活動発表の規模に見合った拠点施設の建設が望まれるようになりました。昭和36年に「所沢市民会館」、昭和45年に「所沢市文化会館」、平成5年に「ミュージアム」が開館し、行政区ごとにあるまちづくりセンター(公民館)にも、200〜350人収容できるホールなどが建設され、市民の文化芸術活動に拍車を

かけていきました。

高度経済成長期にかけては、こうした活動にも変化が見られます。昭和58年には、「市民のハイモニー」を創り上げるため、市民オーケストラや合唱関係者など、市民ボランティアの手でペーサーヴェンの「交響曲第九番」演奏会が開催されました。さらに、昭和61年には、航空記念公園を会場に、「市民文化フェア」が開催されました。これらのイベントは、昭和55年から開催された「所沢市民フェスティバル」と同様、高度経済成長期に、新たに移り住んできた土地・所沢における「ふるさと所沢」の文化芸術活動の萌芽、すなわち新興住民による「ふるさと作り」という意義とも重なっていくものでした。

その後、成熟社会を迎えて、団塊世代の大量退職により、文化活動にいそむ人が増え、仲間づくりや交流、親睦を深めていくなかで、「趣味を深めて、余暇を充実させる」活動から、文化を通じてのボランティア活動、地域への貢献など、「自分の生きがい」を文化活動に求める、新たな局面を迎えるようになりました。

近年は、文化芸術活動の新しい動きも見受けられるようになり、平成20年には、中心市街地活性化の拠点として、野老澤町造商店がオープンし、野老澤行灯廊火などの伝統的な文化行事を守り育てていく活動が始まりました。さらに、平成25年には、音楽好きの若者文化の創造と発信を支援し、音楽にあふれたまちを目指す「音楽のあるまちづくり



ユネスコ村

1950年代から平成初期にかけて本市にあった西武鉄道が所有する遊園地。園内は世界各国の建築物が小さく再現されたほか、オランダの風車、トーマス機関車などが園内を飾っており、遊園地というよりテーマパークに近い部分もあった。人気行楽地として親しまれ、遠足にも重宝された。また、野外ステージでは連日イベントが行われていた。現在は園内の一部を毎年5月下旬から7月中旬にかけて「ゆり園」として営業している。

くり」といった新しい動きも始まりました。

このように、文化とは、先人たちが積み重ねた活動の歴史を踏まえつつ、反芻しながら醸成され、時に反芻しながら形成されるものであり、時代の変化とともに、その果たすべき役割も変わります。そのためには、現在抱えている課題をしっかりと把握しながら、将来に向かい、新しい文化を生み出す環境を整えていくことが必要となります。

多様な文化芸術活動・文化行事の事例

- 所沢市文化祭、市民文化フェア、戦国藩の城まつり、ところざわまつり、市民フェスティバル、ところざわ星空フェスティバル、所沢こどもルネサンス、所沢市子ども写生大会、ところざわ人形劇フェスティバル、こども「とうきち」将棋大会、野老澤行灯廊火、サンタを探せ!などのイベント
- 音楽のあるまちづくり、「所沢で第九を」演奏会、市民合唱祭、吹奏楽祭、管弦楽祭、所沢ジャズフェスティバル、空飛ぶ音楽祭などの音楽活動
- 「引込線」(現代美術展)、「市美術展」などの展覧会
- 重松流祭ばやし、岩崎獅子舞、伝統芸能発表会などの民俗芸能
- どんと焼き、まゆ玉まつりなどの伝統的な地域行事



市民文化フェア

見えてきた課題

本市でこれまで展開されてきた文化芸術活動における課題として、進みゆく高齢化、文化芸術の後継者や発表の場の不足、地域コミュニティの衰退、事業の固定化などが挙げられます。

少子化の影響や若い世代の関心の低さに起因して、活動の担い手不足や高齢化・固定化が進んで



「所沢で第九を」演奏会



戦国滝の城まつり

います。また、地域コミュニティの衰退を原因として、地域文化活動を維持することも難しくなってきています。最近、SNSが普及している理由には、日本の現代社会の中で、コミュニティが不足していることも影響していると思われます。

さらに、本市に長い歴史を持つて開催されている文化芸術活動が数多くあるということは、裏を

返せば、事業の固定化が進んでいるともいえます。平成27年に実施した「文化芸術に関する市民アンケート調査」によると、多くの事業で市民への認知度が30%以下に留まるなど、長く続いているにも関わらず、PR不足などにより市民への広がり

に欠けるといった面も見受けられます。

今後は、地域のさまざまな世代の人々が集まることが出来るオープンな場所を作るなど、若い年代の後継者育成や市民を巻き込む働きかけが必要であるとともに、異分野を含むネットワーク（つながり）を作って相互に研鑽し合い、新たな文化を創造していくことが望まれます。

さらに、平成28年度市長施政方針からは「5つの思い」（教育・子ども、環境、福祉自治、文化・ブランド、行政）に加え、近年の社会環境の変化を踏まえながら、より充実した市民生活に向けた「健康長寿」が加えられました。「地域で安心していきいきとした生活をおくる」という目標の実現に向けては、本市の都市緑地が持つ豊かな景観資源や盛んな文化芸術活動をさらに発展させ、周知していくことで大きく貢献していくことが期待されています。

単なるスローガンに留まらない、世代を超えた新たなライフスタイルの提案としていくこと（＝後述の「所沢ニューサバピア」宣言）が望まれるところです。

未来の文化芸術Fieldを描く

Chapter 2.

- 所沢市の文化芸術に欠かさざる4つの視点
- 20年後の所沢市の文化芸術分野を見晴らす



空飛ぶ音楽祭2017



2	1
3	
8	7 6 5 4

1. 所沢市子ども写生大会
2. 三ヶ島中学校黒板ジャック
3. ライトダウン所沢in航空公園
4. 所沢銀座サンバカーニバル
5. ところざわYOSAKOI元気フェスタ
6. 所沢ソラバル
7. 親子にんじん収穫体験
8. ところざわまつり



所沢市の文化芸術に 欠かさざる4つの視点

4 viewpoints essential to our culture and art

ここまでみてきたように、「時代の社会的変化^{※1}」を受けて、現在、所沢における文化芸術活動のあり方に大きな変化が生じています。文化芸術分野での将来の方向性を考える上で、より魅力あるまちとしていくためには、現在課題化されている諸要因について、多様な観点から問題を検討していく必要があると考えます。ここでは、本市の文化芸術に欠かさざる4つの視点を示しながら、今後望まれる方向性を検討しました。

ミュージズなどの文化拠点の公共的役割と 経営感覚のバランス

【現状】

既に第1部で述べたとおり、本市の文化拠点施設「ミュージズ」は、大中小3つのホールと展示室など、それぞれに特徴があり、東京近郊において未だ突出した個性を持った文化施設として位置付けられています。

施設の利用率は、全国的にみても高い水準（平成27年度83%）を保っていますが、ここ数年は横ばい（平成26年度比1%増）の状況にあります。財政面では、施設の管理運営費として市から年間約5億円が支出され、さらに、建設から24年を経過し、予定されている大規模改修にあたっては、多額の工事費（約56億円）も見込まれています。

【課題】

ミュージズは、本格的な文化芸術公演の鑑賞拠点であるとともに、市民文化の発表拠点にもなっており、市民の文化芸術活動への貢献度は多大なものがありません。

一方で、年間5億円の管理運営費を市から支出しているという経営実態から、深刻化する財政状況にあつては、改めて今後のミュージズの果たすべき役割の方向性について考えなくてはなりません。市民文化の発表拠点としての役割を優先していくのか、本格的な文化芸術公演の鑑賞拠点としての役割を優先していくのか。施設の利用率やクオリティを維持しながら、いかに収益を上げていくのか、その方向性を検討する必要があります。

【方向性】

市民文化の発表拠点として、地域の文化芸術活

展開（グッズ販売、自動販売機設置など）

少子高齢社会や多様化する価値観の中での 今後の文化芸術支援策のあり方

【現状】

高齢社会の到来に伴い、市民文化団体、イベント出演者や来場者の高齢化（杖・歩行器・車いす利用増）が進んでいます。ミュージズなどで行われる公演も、夜公演よりも昼公演が増えるなど、高齢者が参加しやすい開催時間に移行する傾向が見られます。

一方、若者の活動時間は休日及び夜間であり、ライフスタイルや嗜好の変化、IT化の進展による、映像配信サービスの充実など、屋内型・個人単位の嗜好から、わざわざ会場へ足を運ばなくても成立する文化が増えてきています。

【課題】

本市の関連計画・施策である「所沢市人口ビジョン」¹、「所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」²については、2施策とも共通して、人口減社会に向けて、子ども・若い世代・子育て世代を主なターゲットとしています。

しかし、従来型の文化活動支援は、ひっ迫する財政状況下では、新たな若者向け文化活動に対する資源配分が十分には及ばない恐れがあります。少子高齢問題、若者のライフスタイルの変化、文

化芸術ツールの変化が大きくなり、財政面からも今後の文化芸術に係るターゲットをどのように見据えていくかが課題であり、今後は平成27年に実施した市民アンケート調査など市民要望を的確に把握しながら、施策を打ち出すことが求められています。

【方向性】

異なる世代に応じた文化芸術支援策を展開します。とりわけ、子どもや若い世代、働く世代をターゲットとし、文化芸術を享受・創造できるしくみを整備する必要があります。併せて、高齢者が培ってきた技術や知識などを次世代へ継承していく機会を創出するなど、各地域で活躍できるしくみも整備する必要があります。

●若者が興味を持つ分野・コンテンツなどの推進

●高齢者が培ってきた文化の技術や知識などを次世代へ継承する機会として、青少年を対象とした体験事業などの開催

●子育て世代をターゲットに親子参加を対象とした施策、定年退職予定世代をターゲットに次世代育成を視野に入れた施策など、各年代や家族構成に応じた施策の展開

●若者が集まれる場所の整備（既存の高齢者を中心としたコミュニティのほか、若者が積極的に集まれるコミュニティを理想とする）

動育成の観点で考えるミュージズの役割には多大なものがあります。しかしながら、経営面の観点で考えると会場利用料だけでは施設運営に十分な収入ではありません。今後は、ホールのクオリティを支える本格的な文化芸術公演や集客力の高い公演と、市民の活動拠点としての役割を的確に配分するための高い経営感覚を養いながら、本市の文化の創造性やオリジナリティを高め、さらに、会場利用料以外での収益の増加を図る事業の展開を必要があります。

●文化芸術拠点として人が集まる工夫（航空記念公園のイベントと連動するなど、魅力を高める仕掛けをする）

●興行性の高い大型事業の誘致・共催（ミュージズ・シネマ・セレクション）のような質の高い芸術を鑑賞する機会を充実させる）

●会場利用料以外での収益の増加を図る事業の

独自の郊外型文化圏の形成の可能性

【現状】

本市は東京都に隣接する首都圏30km圏内にあつて、アニメ映画「となりのトトロ」の舞台とされている、豊かな自然と都市機能が調和した、武蔵野の面影をとどめる美しいまちです。

本市の持つ文化的特性は第1部で述べたように、「航空記念公園、狭山丘陵、狭山湖を有し、遠く富士山を望める抜群のロケーションと都心からのアクセスのよさ」、「個性を持った文化施設があるまち」、「日本初の飛行場が開設された歴史的な背景を備えたまち」、「文化芸術にかかる教育機関がキャンパスを置く文教都市」、「世界に名だたる文化芸術系の民間企業があるまち」、「市民の文化活動が活発であるまち」といった点が挙げられます。

【課題】

都心からのアクセスの良さは、通常本市の長所のように語られています。裏を返せば、魅力的な文化事業が都内にあれば、市内より気軽にそちらを選ばれてしまうマイナスの要素と捉えることもできます。

言い換えれば、巨大都市「東京」が放つ強力な吸引力からのがれ、市民だけでなく、外部からも本市で開催されるコンサートやイベントを聴きたい、観たいと感じるオリジナルの魅力を形成できるかがカギとなります。

※1…時代の社会的変化…所沢に限定された課題ではなく、首都圏30km圏に位置する地域に共通の課題である「人口減少」、「都市コミュニティの空洞化」、「インフラ（産業や社会生活の基盤となる設備・施設）の老朽化」、「施設の大規模修繕問題」などと捉える事ができる。

【方向性】

首都圏から30km圏内にある本市が、市外在住者からみても魅力的な選ばれざるまちなちを目指すには、他の自治体と比較することによって所沢市の個性と売り物を認識し、独自のコンセプトを作る必要があります。そのためには、所沢の強みを活かし、いままでない文化芸術のあり方を多方面に広げ、ブランド戦略のツールとして外部へ所沢の魅力を発信していかねばなりません。

さらに、所沢が「訪れて何か新しい楽しさを追求する場所」として人に記憶してもらう必要があります。それらを積み重ねることによって、独自の郊外型文化圏を形成していくことが可能となるのです。

●文化芸術系の教育機関との連携（日本大学芸術学部、県立芸術総合高等学校、早稲田大学人間科学部、秋草学園短期大学文化表現学科）

●魅力ある資源の活用（ミュージズ・航空記念公園をはじめとした魅力あるロケーション、市ゆかりの文化人、特に「マンガ・アニメ部門」など）

●産業との連携・誘致（㈱KADOKAWA、㈱村松フルート製作所、㈱ビクセンなど）

●東京のベッドタウンとして所沢市に住んでいる若い世代や子育て世代に興味を持ってもらう施策の展開

市民文化と都市文化の支援のバランス

【現状】

本市では、「市民文化」の領域における文化活動が活発で、毎年回を重ねて60回以上開催されている文化団体連合会による「所沢市文化祭」、年末に市民オーケストラと公募による市民合唱団が共演する「所沢で第九を」演奏会など多様な文化活動が展開されています。

また、「都市文化」の領域における文化活動として、音楽好きの若者文化の創造と発信を支援し、音楽にあふれたまちなちを目指す「音楽のあるまちづくり推進事業」があります。これは、元々本市が持っていた音楽活動が盛んな状況に端を発し、「都市文化」までの醸成を目指して行っているものです。

【課題】

本市のこれまで定められてきた関連計画などにおいては、少子高齢社会に向けて若者をターゲットとし、「文化」を、まちなちの魅力を向上させるコンテンツとする「都市文化」的施策の推進が方向付けられています。

「都市文化」は、地域の文化資源を持つ活力などを活用し、文化的な創造性や潜在力を新たに発見してそれらを都市・地域の活性化に生かすこととあります。その背景には、何よりも深刻化する財政状況のなかで、従来の開発型とは一線を画した新たな地域再生への活路を希求する動きでもあ

ります。今後は「市民文化」と「都市文化」の活動に対する行政支援のバランスをどのように取っていくかが課題となります。

また、世代の違いや、専門性の有無にかかわらず、全てに共通する問題として「場の確保」があります。これについては、現在社会問題化している「空き家スペース」の発展的利用などを工夫しながら必要なニーズを満たしていくことが重要です。

【方向性】

「市民文化」は、文化都市の基本であり、その活況は、市勢のバロメーターでもあります。市民の自発的な文化活動の基盤を維持すると同時に、世代、地域間のバランスに配慮しながら、創造性や探究心を担保していく必要があります。また、「市民文化」の展開の中から高度化し磨かれた活動は、「都市文化」にまで成長し、やがてシティセールスとしての発信力を持つに至ります。

しかしながら、「都市文化」は、これまで行政が直接携わっていない領域であり、全体として地域資源を十分活用できていない現状にあります。そのため、今後において積極的に直接的な「環境整備」が必要となります。

●「COOL JAPAN FOREST」構想「2020年東京オリムピック・パラリンピックに向けた「文化プログラム」の推進など、次世代に継承される有形・無形の文化レガシーを創出

part2

20年後の所沢市の文化芸術分野を見晴らす

An outlook for our culture and art field after 20 years

■近未来の所沢らしさの分析

人口ビジョンから見る20年後予想

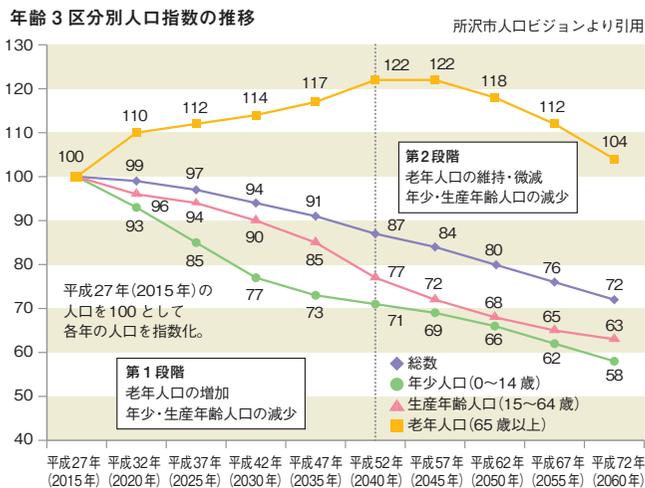
少子高齢社会への対応は否応なく全ての自治体の喫緊の課題であり、何らかの施策及び将来的な展望を迫られています。一部報道により20数年後の2040年に「東京23区内のある都市が消滅する可能性がある」との調査結果が喧伝されて、センセーショナルな話題となりました。都心から程よく離れ、郊外型都市として発展してきた所沢市については果たしてどうなるのでしょうか。最新の「所沢市人口ビジョン」によれば、本市の少子高齢化の進行プロセスについては、全国の傾向と概ね相違ないと報告されています。

具体的には、老年人口は、現在から2040年に至るまでは、総人口の減少とともに増加し、2040年を境に維持・微減が始まります。これは

約20年後に本市の老年人口はピークに達するという結果となり、以降、人口は30万人を切り減少を続け、高齢化率は30%以上を常に維持する時代となります。これに対し「所沢市人口ビジョン」では、「人口減少を現状よりもゆるやかに」推移させ、2060年に人口27万人の維持を目標としています。いずれにしても20年後の本市が、人口は30万人前後に減少し、老年人口がその3分の1を占める典型的な高齢社会となることは間違いありません。

所沢市は「都市の消滅」といった危機的状況は免れるとしても、人口減少、老年人口のピークの中、20年後を迎えることとなります。生産年齢人口も減少することから、おそらく景気の悪化、もしくは停滞している可能性が高いと考えられます。

20年後の所沢市の文化芸術における将来像を思い描き、世代を超え、本市に住む人、訪れる人それぞれが心にゆとりを感じられるまちなちとなるよう、本市ならではの新たな郊外での暮らし方を提案します。



これからの20年と諸課題

少子高齢社会を見据え、本市の文化芸術は10年、20年後、どうあるべきでしょうか。

シニア世代の増加に合わせてシニア向きの文化施策を増やすという選択はあまりに安直というべきでしょう。文化活況の源はやはり若いエネルギーです。生産年齢人口の維持や周辺からの本市への来訪者の増加を見込むべく、そして何より創造性の喚起という意味において若者世代への文化的関心を高める試みが今後必要不可欠です。言い換えれば安定安住を望み、守りに入った時点で本来文化芸術の持つ起爆剤的、覚醒的な側面は形骸化したも同然であり、やはり新しい文化が生まれる土壌づくりや未知の才能の発掘や育成とともに、若い感性を刺激する文化芸術策の推進を第一義に考えていく必要があります。

一方、20年後にピークを迎えるシニア世代を決して軽んじるのではありません。団塊の世代がリタイアし、第二の人生の支えや活路となるのもまた文化芸術の大切な役割です。しかしながら、老年人口の急増は2017年現在においても、文化芸術フィールドの現場において明らかになっており、既に多くの課題を抱えています。例えば市民の文化活動の場においては、団体を構成するメンバーの高齢者率が高まるとともに、世代交代が進まず存続の危機にまで至っているケースが挙げられます。もう一例、市民の文化芸術作品鑑賞時における会場設備やアクセスの問題として、文化の

「健幸長寿 思わず歩きたくなるステキなマチ 所沢」を目指して

将来の『自立都市・所沢』はどうあるべきかという大きな課題について、文化芸術という視点から見てみましょう。人々が、毎日を充実させて健やかに暮らしていくことが、市と市民にとって目指すべき目標であることは言うまでもありません。将来都市像に示された「みどり」と笑顔にあふれる「まち」を目指すためには、本市がより充実した市民生活のために掲げた「健幸長寿」（健やかで幸せ）という目標への貢献が求められるものとなります。幸いなことに、本市には日常空間と調和した「みどり」が存在しています。この恵まれた環境の下で、「文化芸術」と「スポーツ」を楽しむことで、お隣やご近所の仲間との関係が生まれます。それはすなわち地域のコミュニティを深めつつ、日々の暮らしをより豊かなものにしていくはずですが、文化芸術は、年齢や性別、社会的地位、国籍、人種、身体能力など、さまざまな場面での障壁を乗り越える力を持っています。また、文化芸術の振興がもたらす効果には、多様な属性の人々の共生の実現があります。そして、すべての人々が文化芸術に触れ、親しむ、楽しむなど、文化芸術活動とのつながりを深めることで、社会的なつながりが強くなります。

多様な文化芸術を人々が楽しめるまちを創造し、まさに文化芸術があふれることで、「思わず歩きたくなるステキなマチ 所沢」が現実のものとなり、

殿堂ミューズの来場者をサンプリング（標本抽出）すれば杖や歩行器、車いすの利用者が際立って多くなっています。優先した鑑賞スペースの確保もさることながら、階段の昇降やトイレ利用など、さまざまな施設改良が望まれるほか、会場までの交通手段にまで配慮が必要な時世となっています。

新たな地平で世代間交流を考える

若者には劇場などで直接鑑賞する文化から距離を置き、屋内型・夜間型のネット文化、ITメディアを通じた独自の文化を嗜好する流れも生まれています。同時に若年層の貧困が社会問題化する中で「車離れ」、「PC離れ」など、従来の生活必需品の概念も変わりつつあります。

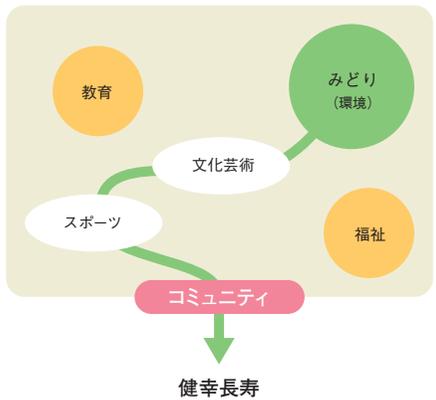
個人が他と交わる必要のないヴァーチャル空間で欲求を満たし、物を持つことに固執しない時代に、どこでどう現実の社会と折り合いをつけるのでしょうか。やはり求められるのは内部に訴える「心の豊かさ」であり、それこそ「文化芸術」が持つ最大のポテンシャルです。

思えば現在のシニア世代は高度経済成長前の「物の無い時代」を一塊になって経験してきました。その時代、文化は衰退していたかと言えば、映画、演劇、寄席芸などの庶民・大衆文化においては、むしろ隆盛を極めていたと言っても過言ではありません。物が無かった世代と物に固執しない世代では、成り立ちを含めて若干趣を異にしますが、共通項もあるはずで、片や経験者、片や新たな価値

その結果、「健幸長寿」という市民が望みうる健康で幸福な生き方をも、実現できるのではないのでしょうか。

プラス面は最大限に、マイナス面は逆手に

都心への一極集中がさまざまな分野で問題視されています。本市においても市街地のみを文化拠点化すれば、郊外に住む交通手段に乏しいシニア世代との間に歪みが生まれるでしょう。ミューズは本市の文化の殿堂ではありませんが、将来的には文化拠点そのものをより広域に分散・拡大して、市民に身近な活動や鑑賞の場を探求していくべきでしょう。幸い、本市は11行政地区ごとにまちづくりセンターを設置し、各センターにホールや講堂、音楽室を備えています。



文化芸術を通じ世代を超えての交流（ところざわまつり）

値観を提供するものとしての両者がスクラムを組めば、物資に頼らない新たな文化の地平が見えてくるのではないのでしょうか。人と人とのつながりが希薄になった現在、文化芸術作品や活動は、そうした社会情勢や世代間格差を穴埋めできる抛り所として、本市ならではの文化圏の創造、魅力的なまちづくりのカギを担うものです。

また、近年課題となる「空き家」の開放についても、「アーティスト・イン・レジデンス」や身近な文化サロン（ネオ歌声喫茶や自主管理型の展示スペースなど）の活用などを講じたいところです。郊外地域において、市民の方は市街地まで足を運ばずともみどり豊かな環境で文化活動に参加でき、本格的な文化鑑賞の機会の創出も可能な点は本市の強みでしょう。

このように、本市の近未来の文化都市像として、人口減少・高齢人口のピークを素直に受け止め、見た目にはコンパクト化する要素も含めながらも、本市の付加価値を最大限活かしたクオリティの高い施策が地域の色合いを織り交ぜながら実施されている姿を描きたいところです。本市の持つ有形無形の既存資源と魅力的な文化事業を有機的につなぎ合わせることで、「所沢らしい」郊外型の文化圏の形成が可能になるものと考えます。

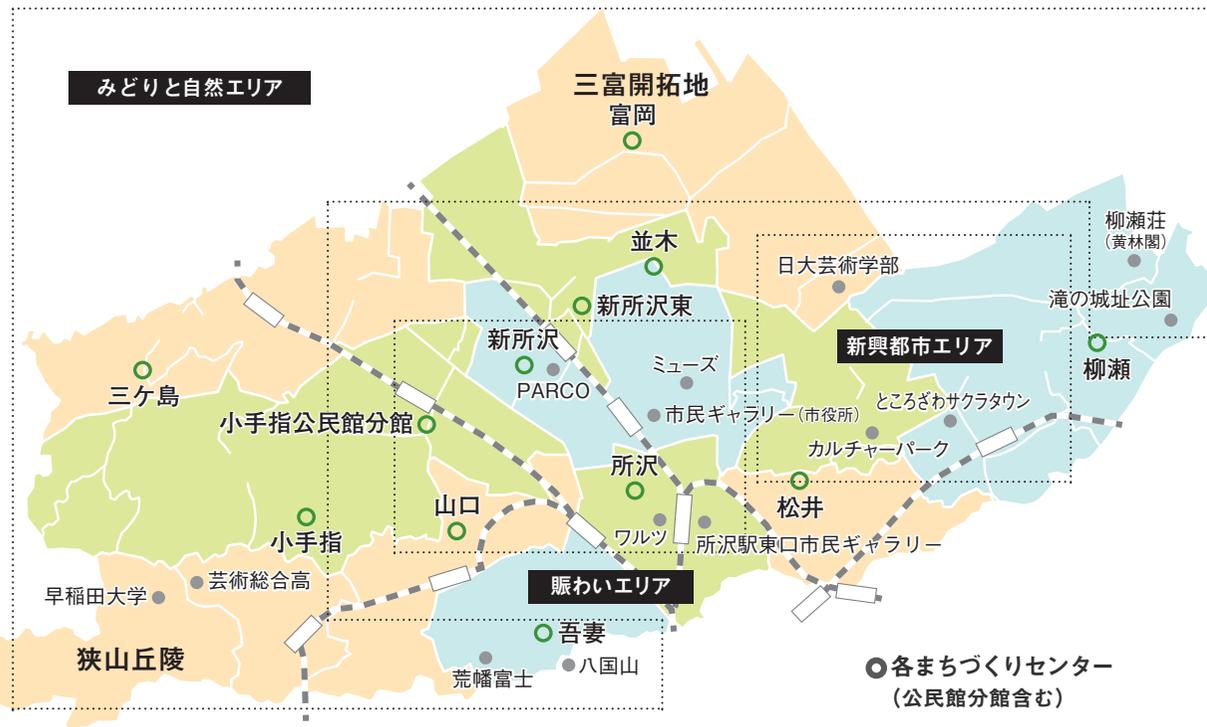
「所沢ニューサバビア（新たな郊外型生活スタイル）」の提案

環境と一体となった新たな『野外文化』の創生

郊外型Ⅱみどり豊かな都市空間は自然界の空气清新効果だけでなく、人々に一服の清涼剤、心のオアシスとしての役割をもたらします。本市にはちよつと足を伸ばせば、そうした豊かなみどりを活かした公園や四季折々の草花を楽しめるエリアが多数存在します。本市の文化芸術の将来を展望するにあつては、

※3…アーティスト・イン・レジデンス…国内外のアーティストが地域に一定期間滞在し、創作活動などを通じてアーティスト相互及び地域との交流を深め、芸術文化の創造を図る取組。

※4…昭和30年代に流行した、アコーディオンを伴奏に、客がリクエストした曲を客全員で歌う喫茶店を現代風に復興させたもの。



上空から見た航空記念公園
所沢市内には航空記念公園をはじめ、三富開拓地や狭山丘陵など豊かな自然が存在し、各所にて多種多様なイベントが開催されており、所沢の新たな文化創出に一役買っている。



航空記念公園・野外ステージ

ややもすると敵めしい、閉じられた空間や選ばれた人たちだけの嗜みのように思われがちな「文化芸術」の活動や発表の場を、公園や木々の葉擦れや虫の声する原っぱ、雑木林など、恵まれた大自然に求め、何人も自由に身を委ねられるステージ、すなわち従来の創作や発表の機会を屋外へと開放した「野外文化」の取り組みも大いに推奨、推進したいところです。

みどり豊かな航空記念公園・野外ステージと国内有数のパイオルガンを備えたミュージズとは隣接しており、全国的にも珍しいユニークな文化エリアと言えましょう。ここでミュージズと野外ステージを一体化させ、世代やジャンル、プロ・アマの垣根を超えて音楽を楽しもうという試みである

「空飛ぶ音楽祭2017」が開催され、市内外から多くの人が訪れました。

このほか、市東部エリアには「文化」を名に冠したカルチャーパークがあり、野営などの生活文化も含めた効果的な活用が期待されるほか、市西部での「ひまわり畑コンサート」や市北部での「くぬぎ山コンサート」など、毎年民間団体によるさまざまなイベントも企画されており、所沢の新しい文化（ブランド）創出に一役買っています。

また、「まちごとエコタウン所沢構想」で取り組んでいる「所沢的都会田舎ライフスタイルプログラム」にあるように、大自然の中で野外文化体験をしてみることが、所沢の都会田舎の一面を知ることのできる貴重な機会となることでしょう。

自然と都市の美観が調和した「所沢文化圏」へ

本市の既存資源を俯瞰すれば、市中心部には航空記念公園やプロペ通り商店街、中心市街地再開発による賑わいのエリア、市東部に目を向ければ(株)KADOKAWAのところざわサクラタウンに代表される新興都市エリア、市北部・西部には三富開拓地、遠く富士山を望む狭山丘陵など、豊かなみどりと自然エリアが存在します。と同時に、文化芸術を掲げたアカデミックなフィールドも存在します。この多層多様な側面を持ち、安定した都市機能とほよみみどりが一体化した本市のポテンシャルこそ、本来「郊外型」と呼べるもので、今後これを全国へ向けて誇示していいと考えます。

文化芸術を志す若者世代には今日の情報ネットワークを駆使する中で、キャンパスを飛び出し、武蔵野の自然の中で大いにクリエイティブな感性を開花してほしいと考えています。子育て世代やシニア世代にはショッピングの合間に季節の色鮮やかな公園で憩い、時にはミュージズでお気に入りの公演を楽しみ、充足感に満ちた一日を過ごしてほしいと思います。そして、市東部のエリアでは、市内だけでなく都心から、また国外からの来訪者にも、民間活力を最大限に活かし、時代の先端を行く戦略的な文化施策を講じていきたいところです。

都会の喧騒から離れ、かと言って隠遁するような彼方ではなく、ちょうどいい距離感にちょうどいい文化芸術環境がある。その唯一無二の地が「所沢文化圏」です。

「所沢ニューサバービア」とは…

「所沢文化圏」の位置付けが、1980年代の従来型郊外生活を第1期とすれば、それに連なる第2期が「所沢ニューサバービア」という環境優先型の郊外ライフスタイルです。コミュニティをアートでつなぎ、またコミュニティの強化に還元されていくという所沢らしい新たなライフスタイルのスタートです。

まずは、このエリアの持つさまざまな文化的素材を広く提供し、人々が好きなように取捨選択し、嗜好に合わせて自由に楽しめる環境を提示

します。それは決して高尚な文化芸術アイテムだけではなく、雑多なもの、微小なもの、荒唐無稽なもの、「サブカルチャー」や「トリビア（雑学的な事柄や知識）」といった範疇で語られるものも含まれます。そこから得られる文化的な満足感も極めて私的なものであって構いません。人それぞれの生活行動範囲、人付きあいの中で、各々の自然な時間感覚と与えられた環境での自然な身の置き方を重視します。都市の喧騒の中では味わえない、現在の市民生活の先を見据えたこれからの生き方の提案です。

※6…サブカルチャー…ある社会に支配的にみられる文化に対し、その社会の一部の人々を担い手とする独特な文化のこと。

※5…まちごとエコタウン所沢構想…「未来の子どもたちに残したいまち」として、人と人との絆や、人と自然が調和した豊かなまちと心豊かな暮らしを目指したエコタウン構想（平成26年3月策定）。

都市機能×豊かな自然×個々の時間
|| 満足感・至福感

五感を心地よく刺激する

新たな郊外での暮らし方

「所沢ニューサバービア」宣言

第1期に創設された多摩ニュータウンに代表される郊外型都市では、第1入居世代の高齢化に伴い、コミュニティ存続に関する問題が表出しました。そのため、若い世代がそのまちに魅力を感じて入居してくるような世代更新プログラムを求めて模索が行われています。「所沢ニューサバービア」宣言とは、言うならば人々が文化的な満足感・至福感を得て「良く生きる」ための定住志向宣言でもあります。

県南西部の「文化芸術圏」を視野に

世界に目を向ければ、大都市とは言えなくとも、現代人の新たなライフスタイルに見合い、物心ともに潤いをコーディネート（調整し、まとめること）してくれるまちが注目されています。例えば米国オレゴン州ポートランドの郊外型都市空間などは本市も模範としたところです。
人口60万人で、市街地から車で20分も走れば一面大自然のコンパクトなまち。そこに暮らす人々の手に届く距離に必要なものがあり、豊かな自然

にも恵まれたバランスの良さから、環境に優しい都市として全米第1位の評価を得ており、「住みたい」、「住み続けたい」という声も全米第1位とランク付けされています。

一方で、若者文化の中心地としても知られ、さまざまな分野の創作や発信の舞台として、アーティストが移り住み、サブカルチャーも含めた周辺エリアの活動拠点となっています。また、プロ球団を抱えマラソン大会も行われるスポーツの盛んなまちであり、規模は違えども共通要素は多く、本市の郊外型のまちづくりの理想モデルに揭げていいと考えます。

そうした先進事例も俯瞰しながら、市域を超え地勢をほぼ同じくする自治体同士の協力も極めて有効です。既に、県内で小江戸としてのブランドを確立している川越市や、新たなムーミンブランドを前面に押し出してテーマパークによる地域づくりを進めている飯能市など、所沢市を含めた県南西部エリアの豊かな自然環境や歴史・風土は、住む人それぞれの個性や習慣にあつた新旧さまざまなライフスタイルを包含しています。近い将来、都心からの文化勢力に十分拮抗、あるいはそれを凌駕する魅力的な県南西部における「文化芸術圏」を形成し、20年後、多くの人々の知的好奇心を満たす土壌となります。

最も住み続けたいまち

「ポートランド」と所沢市の類似点

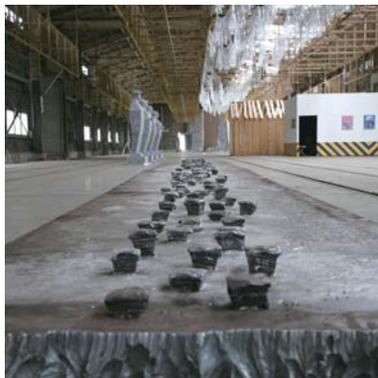
- 立地特性～優れた生活環境～文化的性格
 - ①まとまり良い人口規模（60万人）
 - ②環境に配慮したまちづくり
 - ③大小さまざまな公園を有するみどり豊かな住みやすい地域
 - ④公共交通機関が充実している
 - ⑤教育機関（大学・高校など）が多数立地する文教都市
 - ⑥さまざまな分野のアーティストが拠点を構える芸術都市
- スポーツの盛んなまち
 - ⑦地元で人気の高い球団がある（Portland Trail Blazers）
 - ⑧マラソンイベントがある
- その他
 - ⑨美味しい地ビールや地産地消の食文化がある



比良の丘

★目標とすべき点

- ①「コンパクトシティ」であり、多くの人が徒歩や自転車で移動している＝健康長寿マイレージ
- ②豊かな自然や公園を活かした都市開発計画＝COOL JAPAN FOREST & 狭山湖周辺の魅力資源開発



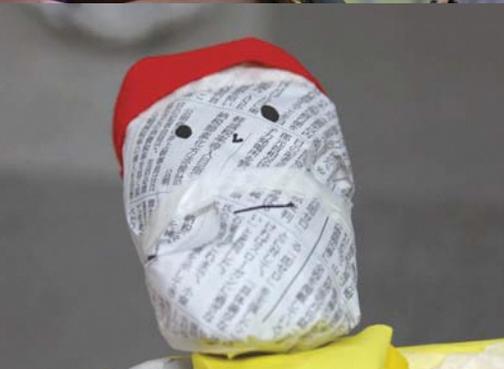
第1回所沢ビエンナーレ美術展「引込線」

ビジョン Visionを

体系的に整理する

Chapter 3.

- ビジョンの基本理念と体系
- 実現に向けた事業施策
- ビジョンの推進体制と検証体制



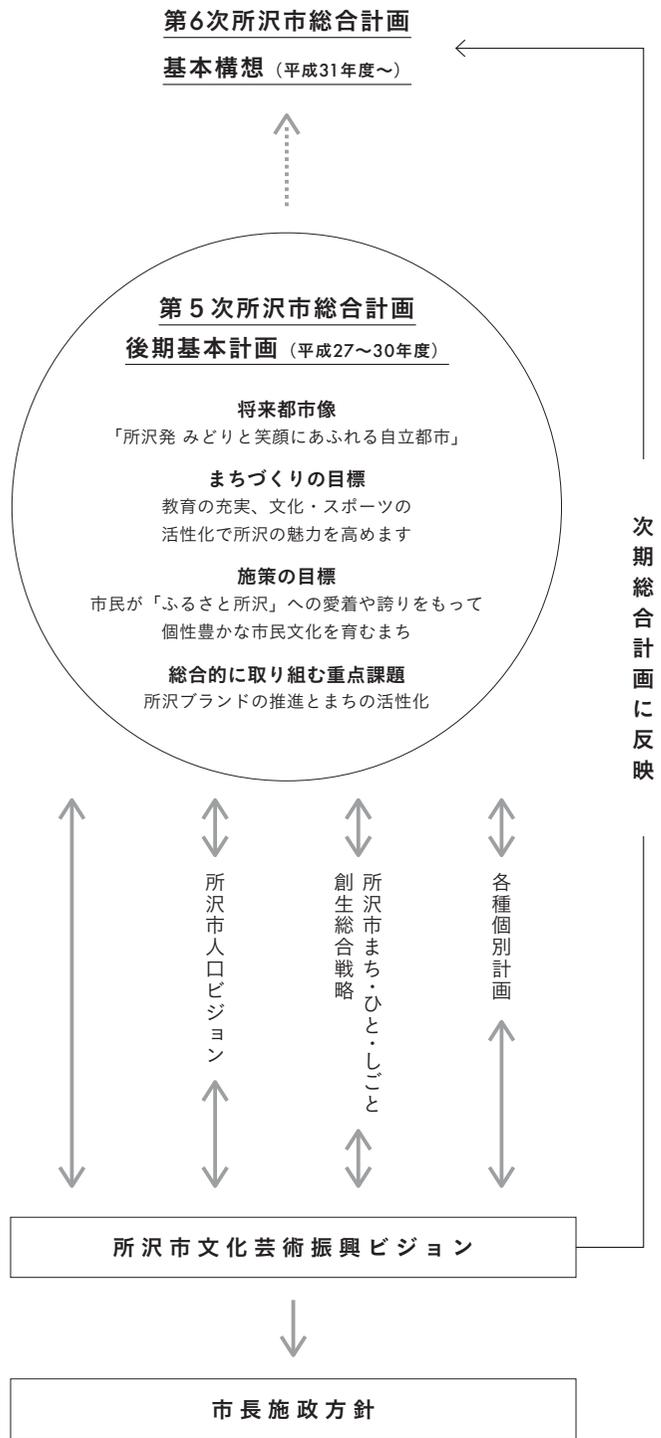
6	5	2	1
8	7	3	4
9			
10			

1.ドレミの丘ミニ音楽祭 2.熱気球体験 3.多聞院 4.岩崎熊獅子舞 5.市民茶会 6.久米水天宮大祭(だるま市) 7.ミュージズ・アークホール
8.空飛ぶ音楽祭2017 9.人形劇教室(所沢こどもルネサンス) 10.第1回所沢ビエンナーレ美術展「引込線」

ビジョンの 基本理念と体系

文化芸術分野における本市の目指すまちの姿として、基本理念を定め、その理念に基づく取り組みの方向性を体系的に示しています。

Basic ideas and system of the VISION



ビジョンの位置付け

「所沢市文化芸術振興ビジョン」は、高度情報化、グローバル化、少子高齢化などの急速な社会状況の変化や「COOL JAPAN FOREST構想」など多様化する文化芸術へのニーズに対応するため、平成8年に策定し、これまで本市の文化芸術振興の役割を担っていた「所沢市文化芸術振興指針」の見直しを図り、本市の新たな文化芸術振興策の指針として策定しました。

策定にあたっては、これまでの取り組みの成果を活かすとともに、文化芸術活動を行う市民の自主性が十分に尊重されるようにするなど、平成13年に国が策定した「文化芸術振興基本法（現…文化芸術基本法）」の趣旨を踏まえつつ、本市の最上位計画である「所沢市総合計画」に掲げる方針や方向性と関係する各種個別計画などとの整合性を図りながらまとめました。

ビジョンの目指すべきまちの姿

このビジョンは、本市の豊かなみどりと文化芸術が有する多様性を活かした所沢市のまちづくりの将来像を明示し、今後の指針としていくものです。

本市に住む人、訪れる人それぞれが心にゆとりを感じられるまちを目指し、下記の基本理念を定めました。

基本理念

みどりと文化・人とゆとりのまちづくり
— 「所沢ニューサバービア」宣言 —

基本理念のもとに次の3つの基本方針を示しました。

- 基本方針Ⅰ
「文化を楽しむ」
— 誰もが文化を楽しめる —
- 基本方針Ⅱ
「文化で魅せる」
— 「所沢ブランド」でひきつける —
- 基本方針Ⅲ
「文化をつむぐ」
— 多様な出会いから文化をつむぐ —

基本方針それぞれに柱立てを行い、施策の方向性を示すとともに、方向性に沿った新たな実践方法を「取り組みのイメージ」として、また、現在の取り組みにおいてさらに充実させ、押し進めていくべき取り組みを「所沢市総合計画実施計画（2015～2018）」に位置付けている事業」として掲載しています。3つの基本方針がそれぞれ密接に関連し、連携・協働することで、魅力あふれる文化都市の実現を目指します。



空飛ぶ音楽祭2017

基本方針Ⅰ

文化を楽しむ

—誰もが文化を楽しめる—

多様化する社会の中で、文化芸術は人々の心を豊かにし、心の活力、生きる力を養うものです。市民一人ひとりが優れた文化芸術に触れ、また創造活動へ参加することにより楽しみ、感動できる機会を充実させることが求められています。

市民の誰もが文化芸術を自由に楽しめる環境を整備することは、文化芸術を推進する上での土台となります。そのためには、文化芸術に興味のない人をもひきつけ、誰もが文化芸術活動に容易に参加し、触れることができるような機会の充実や積極的な情報発信が必要となります。文化芸術を気軽に、また自由に楽しめるまちの実現を目指します。

基本方針Ⅱ

文化で魅せる

—「所沢ブランド」でひきつける—

文化の薫り高い、創造力あふれるまちは、そうしたパワーを活かして社会の潜在能力を引き出し、他の地域の人をも引き寄せる魅力や風格を生み出します。

その生み出された文化の力に多くの人がひきつけられるまちには、まちそのものの魅力が高まり、

新たな住民の定住や交流が新たな文化を生み出す

などの好循環をもたらします。まちに関心を寄せ訪れた人々が感じる喜びや興奮などが、まちに活力を与え、市民が誇りをもてるまちとなるのです。文化の力で魅力あふれるまちの実現を目指します。



地ビール・野老ゴールデン

基本方針Ⅲ

文化をつむぐ

—多様な出会いから文化をつむぐ—

基本方針Ⅰ及び基本方針Ⅱの実現を図るため、市民、文化芸術団体、企業、NPO、教育機関、行政などがそれぞれの特徴を活かしながら、協働・連携して、地域の文化力を活かした新たな価値や魅力を創出する取り組みを推進します。

人と文化のつながりなど多様な出会いや分野を超えた交流を生み出し、文化の発展と地域の活性化

化につなげていきます。それとともに文化芸術が

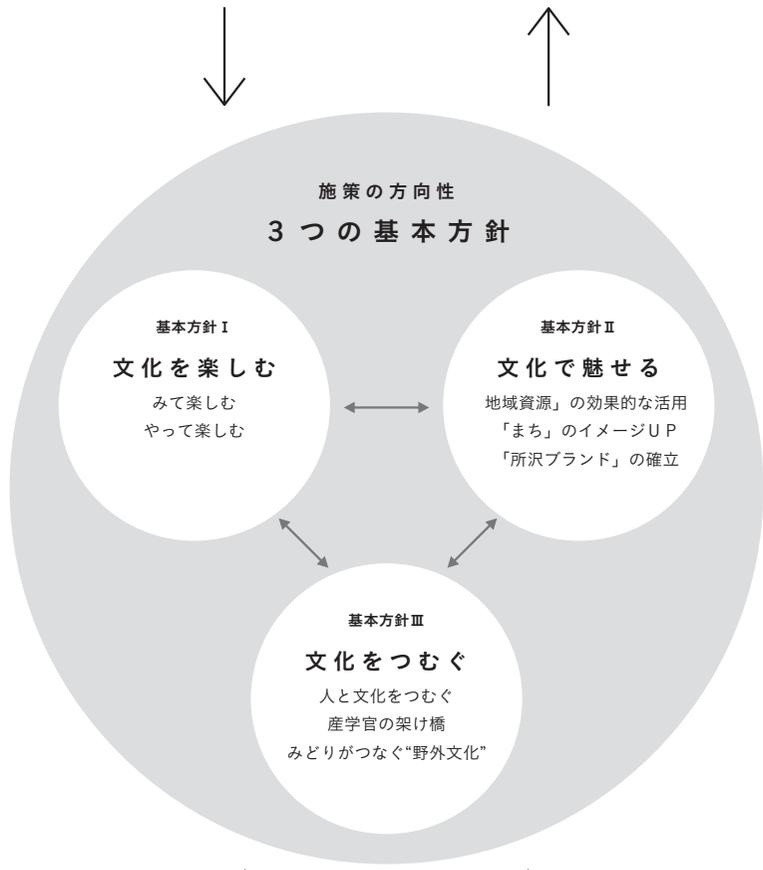
有するさまざまな可能性を将来にわたって活かしていくことができるよう、次世代につながる文化の継承に向けた取り組みも推進します。

そのようにして多様な出会いから生まれた文化を育み、絆を深めながら、所沢独自の文化を醸成していき、後世につながる文化をつむぐまちの実現を目指します。

ビジョンの施策体系

〈基本理念〉

みどりと文化・人とゆとりのまちづくり
～「所沢ニューサバービア」宣言～



所沢市の現状

- ▶ 恵まれた文化資源
- ▶ 多彩な人材・企業・団体
- ▶ 多様な文化の存在

文化芸術に欠かさざる4つの視点

- ▶ 文化拠点の担う役割
- ▶ 多様な価値観の中での支援策
- ▶ 独自の地域性を活かした文化施策
- ▶ 市民文化と都市文化の支援バランス

実現に向けた事業施策

所沢ならではの文化芸術振興の実現に向け、3つの基本方針に即した取り組みの方向性及び具体的なイメージを示します。

Policies and projects for its realization

基本方針1
文化を楽しむ
 — 誰もが文化を楽しめる —

平成27年に実施した「文化芸術に関する市民アンケート調査」によると、過去1年間に文化芸術を鑑賞したことがない人が約2割、参加したことがない人が約7割という結果があります。理由として、「時間的余裕がない」「興味・関心がない」といったものが多く見受けられます。また、市の文化的環境（鑑賞機会、芸術活動の参加機会）に満足しているかという問いには、「わからない」が約3〜5割となっており、多くの市民の文化芸術に触れる機会と、その情報が不足しているということが読み取れます。

今後、本市が活力と潤いにあふれる文化都市と

してさらに発展していくためには、一人ひとりが文化芸術を享受できる環境づくりが必要です。基本方針1では、鑑賞を中心とした「みて楽しむ」、参加体験を中心とした「やって楽しむ」の2つの視点から「誰もが文化を楽しめる」未来を考えます。

所沢市で「文化を楽しむ」もの ↳誰もが文化を楽しめる↳

文化を「楽しむ」ものを「観賞」、「参加体験」の2つの視点から区分し、誰もが文化芸術活動に容易に参加し、触れることができるような機会を充実させ、文化を自由に楽しめるまちの実現を目指します。



引込線2017（旧第2学校給食センター）

【みて楽しむ】

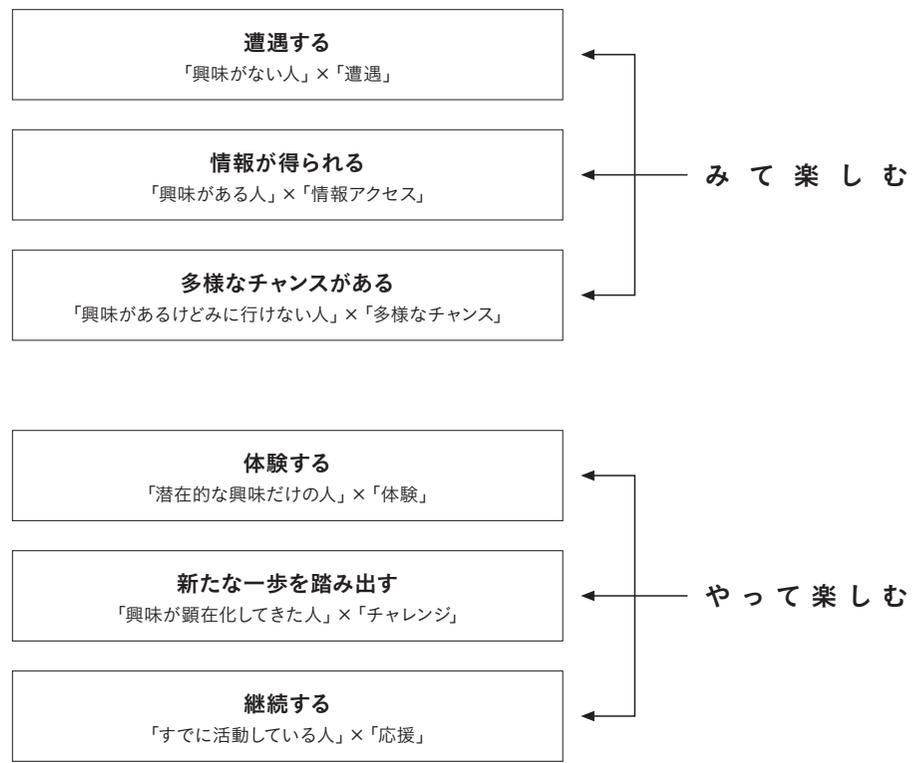
鑑賞をはじめとした「みて楽しむ」機会を、さまざまなライフスタイルに対応した形で充実させていくことは、働く世代や子育て世代などの文化芸術に関心がない、または、関心があっても機会がないといった境遇にある市民が、生涯を通して文化芸術を楽しむことのできる土壌を整備するために大切なことです。

そのため「興味がない人」「興味がわいた人」「みたいけど、みに行けない人」といった市民の文化芸術に対する意識レベルに即した方策を検討し「みて楽しむ」機会の充実を目指します。

【やって楽しむ】

体験教室をはじめとした実践を伴う活動は、人材の発掘・育成に欠かせないものです。また、発表の場の提供や、新たな文化芸術ジャンルの支援などにより、さらなる活動の活性化や、新規層の開拓を狙います。

ここでは「潜在的な興味だけの人」「興味が顕在化してきた人」「すでに活動している人」それぞれの状況にあった方策を検討し「やって楽しむ」機会の充実を目指します。



や っ て 楽 し む

想定される取り組み	内容
体験する 「潜在的な興味だけの人」×「体験」	体験により興味を持ってもらうことを重視して、世代を考慮し、かつ簡易な体験プログラムを提供します。 —文化を体験出来る機会を充実—
新たな一步を踏み出す 「興味が顕在化してきた人」× 「チャレンジ」	興味を持った人に対し、人材・場所といったチャレンジに必要な情報提供を行い、実践につながるサポートをします。 —チャレンジするあなたの背中をひと押し!—
継続する 「すでに活動している人」×「応援」	発表の場の提供といった活動の活性化の支援や、「クラウドファンディング ^{※2} 」といった新たな手法により継続の障害となる問題の解決を行います。 —発展・継続的な活動を支援—

今後の取り組みのヒント

- 幼児期に文化芸術に関する基礎的な体験プログラム（奏でる・描く・踊るなど）を提供し、文化芸術に触れる機会を創ることを目指します。
ex.) 子どもチャレンジ!
- 大人向けに、最近人気となっている「朝活」などを活用し、短時間で気軽な文化芸術に関する体験プログラムを提供し、文化芸術に触れる機会を創ることを目指します。
ex.) 大人チャレンジ!
- 学生の文化芸術活動を奨励し、新しいチャレンジを支援します。
ex.) 学生チャレンジ!
- ステージでの発表は、「音楽」のようなジャンルの縛りにこだわらず、意図しない「遭遇」をメイン目的とし、多様な文化が次々と出てくるようなステージを組むことを目指します。また、展示も多ジャンルの相乗りで行う（テーマ設定可）ことで、ファン層の拡大を図ります。
ex.) パラエティステージ
- 所沢YouTubeチャンネルを開設し、文化芸術情報を発信していく環境の整備をします。
ex.) 所沢YouTubeチャンネル
- 新進の文化ジャンルに対してスタート時のフォローアップをします。また、既存のジャンルも、新規で始めたい人をサポートしていく体制の確立を目指します。（マッチングやコンサルなどの提供、活動推進のノウハウ、仲間集め、レンタルスペースや機材の紹介など。）
ex.) 新規チャレンジ!
- 新しい取り組みを始めたい人に、「応援する人（ボランティア）」を紹介できる制度の確立を目指します。
ex.) 文化的フロンティア補助人バンク制度
- 発表の場や活動資金を求める人・団体に対して、取得機会を提供するためのプラットフォーム整備を目指します。クラウドファンディングを資金と活動場所の2点で展開していき、市内外から文化活動を支えたい人とやってみたい人の架け橋となることを目指します。
ex.) 文化クラウド
- 所沢の歴史や伝統文化を知ることのできるイベントを開催し、地元への愛着を高め、自ら伝統文化を実践する土壌をつくります。
ex.) 歴史ウォーキング

み て 楽 し む

想定される取り組み	内容
遭遇する 「興味がない人」×「遭遇」	文化活動に触れる機会がなく興味もない人に、さまざまな生活パターンや興味を引くと予想されるジャンルなどを考慮した、偶発的で魅力的な出会いを提供します。 —文化との出会いの機会を充実—
情報が得られる 「興味がある人」×「情報アクセス」	各種媒体による文化芸術の情報提供を充実させ、興味のある人が、簡単に有益な情報を得られる環境を整備します。 —欲しい情報が簡単に手に入る—
継続する 「興味があるけどみに行けない人」× 「多様なチャンス」	働く世代、子育て世代をはじめとした文化芸術を楽しむ機会の少ない層に対し、ライフスタイルに縛られない文化芸術の楽しみ方を提供します。 —あなたに合わせたスタイルで楽しめる—

今後の取り組みのヒント

- 音楽のあるまちづくり拡大版のようなイメージで、病院・保育幼稚園・学校・公共施設・街中などで日常的にコンサートや展示などが行われている環境を創ります。「やっ て楽しむ」の発表の場の創出とリンクさせ、一石二鳥を狙います。
ex.) どこでもアート
- 待合室やサロンなどで不特定多数が集まる場所で演奏を聞く機会を創ることを目指します。
ex.) ゲリラライブ侍 休憩時間侍
- ミュージズの公演の終わりに別ジャンルのおまけをつけ、多様な文化芸術に触れてもらう機会を創ることを目指します。
ex.) おまけ付きミュージズ
- 所沢のアートについてのクロスワードパズルを作って、いろいろな公演のチラシの空きスペースに印刷してもらい、PRします。
ex.) 所沢アート×チラ裏クロスワード
- 市内の文化情報（イベント・講座開催など）を集約して公開します。自分の欲しい情報にすぐさまアクセスでき、直接情報の追加もできるようにして、常に所沢で起きる文化情報を配信することを目指します。
ex.) 文化インフォメーション
- 子ども連れで行ける音楽会の開催を目指します。現在鑑賞機会の乏しい子育て世代に対策を講じます。ニーズを調査したうえで、日時・場所・内容を決定します。
ex.) ベビーカー音楽会
- 「生」「現場」「平日日中」に偏重しないネット配信によるイベント実施を目指します。音楽イベントコンテンツをはじめ、展示についても、写真（スライドショー）などを活用し、配信します。「オンデマンド^{※1}」で楽しめる機会を提供できれば裾野は大きく広がり、さらに無料コンテンツと有料コンテンツを分ければ、ミュージズなどの新たな収益の柱となる可能性もあります。
ex.) ネット配信
- ベビーカーでの来場に配慮したり、車いす利用者を優先的に入場させるなど、さまざまなバリアを排除して、文化を楽しめるような環境の整備を目指します。
ex.) 文化的バリアフリー化
- 独自の世界観と独創的な色彩で彩られた作品が魅力的な「障害者アート」を市民に広めていくなど、活動の支援を行います。
ex.) 障害者アート展

※2…クラウドファンディング…起業家などが製品・サービスの開発、もしくはアイデアの実現などの「ある目的」のために、インターネットを通じて不特定多数の人から資金の出資や協力を募ること。

※1…オンデマンド…利用者の要求に応じてサービスを提供する方式のこと。

参考 第5次所沢市総合計画実施計画書（2015～2018）における関連事業

本市総合計画に基づいて実施している取り組みの中で、基本方針Ⅰに関連するものを示します。

■やってみる

事業名	内 容	担当課
「所沢で第九を」演奏会 開催支援事業	昭和58年から毎年開催され、合唱団は公募の一般市民で構成され、8月から週1回の練習を重ねて、12月に所沢フィルハーモニー管弦楽団とともにベートーヴェン作曲「交響曲第九番」をメインとした演奏会を行っている。	文化芸術振興課
「文芸所沢」発行事業	市民の文芸作品への創作活動を促し、作品を通して作者と読者の交流を図るとともに、市内の文芸専門家が選考委員として参加することにより地域文化への貢献を図っている。	文化芸術振興課
文化芸術活動支援補助事業	参加及び鑑賞の機会が広く市民に開かれている公共性の高い文化事業を対象に、「ミュージズ」の利用促進を図り、文化振興を目的として、利用料の一部を補助している。	文化芸術振興課
所沢子どもルネサンス 開催支援事業 (基本方針Ⅲに同時掲載)	子どもたちの感性や表現力を養う文芸、イラスト、合唱などの事業を開催し、青少年教育の振興を図っている。	社会教育課
子ども写生大会開催事業	市内在住・在学の幼児・小中学生・高校生と保護者を対象とした写生大会を毎年4月下旬の土曜日に西武園ゆうえんちで開催している。出展された作品は審査を実施し、入賞作品を生涯学習推進センター及び各小中学校で展示している。	社会教育課
子どもの読書活動推進事業	子どもたちが読書の楽しみを知り、自主的に読書活動を行うことができるよう、「第2次所沢市子どもの読書活動推進計画」に基づいて子ども向け事業、学校との連携事業などを実施し、利用の拡大を図っている。	所沢図書館

■みて楽しむ

事業名	内 容	担当課
親子音楽鑑賞教室開催事業 (基本方針Ⅲに同時掲載)	学校の体育館で気軽に音楽に接し、情操を育み、親子のふれあいを深め、鑑賞のマナーを学ぶ場としている。	文化芸術振興課
管弦楽祭開催支援事業	市民オーケストラによるクラシックの演奏会をミュージズで行うとともに、地域の学校に向きファミリーコンサートを実施し、広く市民に提供することにより、市民の情操の涵養や本市の音楽文化の振興を図っている。	文化芸術振興課
吹奏楽祭開催支援事業	小中学生から社会人までの幅広い世代の市内吹奏楽団体が集まり、吹奏楽祭を実施している。交流及び互いに研鑽することで技術面のレベルアップを図るとともに、豊かな心を育て本市の音楽文化の振興を図っている。	文化芸術振興課
所沢市民合唱祭開催支援事業	小中学校から大人の合唱団まで、市内の多くの合唱団体が参加している。歌の楽しさを市民に伝えている。合唱祭を通じて、各合唱団体、市民、相互の交流を深めるとともに、所沢市及び近隣地域の音楽文化の向上に努めている。	文化芸術振興課
郷土美術館運営援助事業	郷土文化を広く周知するため、国の登録有形文化財「所沢郷土美術館主屋」を活用した美術館で、市内在住の画家、書家、陶芸家の作品を常時展示している郷土美術館の運営援助を行っている。	文化芸術振興課
芸術鑑賞会実施事業	市内各校が劇団、楽団などに依頼して開催する演劇、音楽などの鑑賞会の経費に対して補助を行っている。	教育総務課
複製名画巡回事業	図画工作科及び美術科において、美術を愛好する心を育てる上で、鑑賞活動の重要性が増し、名画の複製を学校で展示し、小・中学校の児童・生徒に名画鑑賞の機会を確保している。	学校教育課
ところざわ人形劇 フェスティバル開催支援事業	市内の人形劇サークルが集まり、市民手作りの人形劇フェスティバルとして、市内公民館を巡回して実施している。	社会教育課
文化財公開活用事業	文化財を公開活用することで、市民に文化財の大切さを伝え愛護の機運を高めるとともに、永い年月を経て先人たちから私たちへ伝えられた「ふるさと所沢」を物語る貴重な資料として、市民とともに後世へ語り伝えている。	文化財保護課
ところざわまつり支援事業	歴史と文化を後世に伝えるとともに、人と人のつながりを大切にするコミュニティの推進や商店街の活性化を始め、多くの市民が参加する所沢を代表するまつりを支援している。	商業観光課
三ヶ島葎子資料室運営事業	明治・大正期に活躍した郷土出身の歌人を広く市民に理解してもらうため、寄贈された資料の保存・普及・活用を図っている。	生涯学習 推進センター

所沢市が平成23年3月に策定した「第5次所沢市総合計画・基本構想」では、「所沢発 みどりと笑顔にあふれる自立都市」を将来都市像として掲げるとともに、平成30年度までを計画期間とする「第5次所沢市総合計画・後期基本計画」においては、総合的に取り組む4つの重点課題の1つとして「所沢ブランドの推進とまちの活性化」を位置づけました。地域あるいは自治体におけるブランドは、「他の地域にはないもの、あるいは他と比較して特筆すべき内容など（魅力的な地域資源）」その地域の特徴を活かすことで地域・自治体の評価を高めるもの（まちのイメージ・魅力）から成り立ちます。

基本方針IIでは、地域にある資源を効果的に活用した文化芸術施策・事業を推進し、市民のまちへの誇りや愛着を醸成するとともに、市内外から多くの人々を呼び込み、本市の知名度を上げながら、まちの活性化につなげ、イメージアップを図ることで、「所沢ブランド」を確立し、文化の力で魅力あふれるまちの実現を目指します。

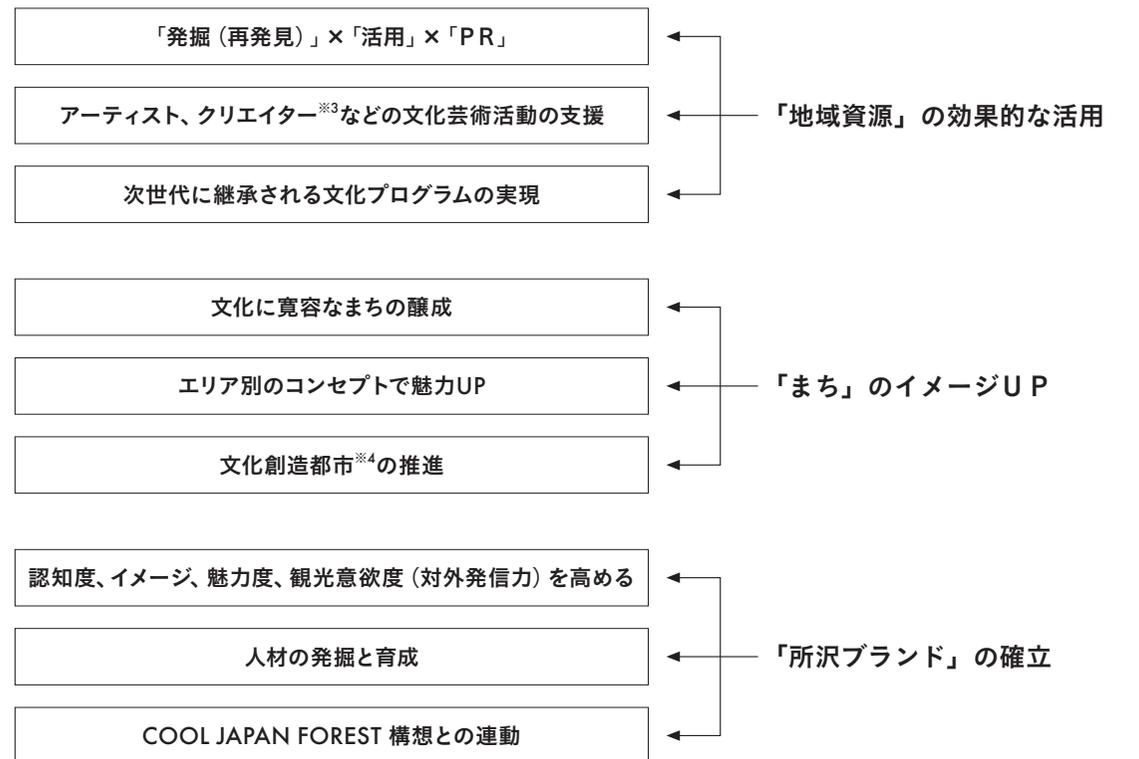
所沢市が「文化で魅せる」もの
「所沢ブランド」でひきつける

文化で「魅せる」ものとして「地域資源の活用」、「まちのイメージUP」、「所沢ブランド」の3つをターゲットとして掲げ、創造的なパワーを生かして地域の潜在力を引き出しながら所沢ブランドを確立し、文化の力で魅力あふれるまちの実現を目指します。

【「地域資源」の効果的な活用】

「地域資源」とは、施設、ロケーション、地元ゆかりのアーティスト、芸術作品、イベント、教育機関、企業など、地域に存在し有効活用できるものすべてが対象となります。これらの「地域資源」を活用し、市民の誇りとともに、他の地域の人たちを魅了する文化芸術施策を進め、まちを活性化させていきます。

また、所沢における文化芸術の質を向上させるアーティスト・クリエイターなどの活動拠点の設置、発表交流の場を創出することで、新たな「地域資源」の可能性を見出すとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、文化プログラムを実施し、次世代に継承されるレガシーを創出することで、文化芸術にあふれる魅力的なまちづくりを目指します。



【「まち」のイメージUP】

理想的な「文化芸術のまち」とは、市民が文化芸術活動への理解や愛着を感じ、誇りを持つようになるとともに、他の地域の人たちを魅了し、アーティストが活動しやすく憧れるまちです。

多様な人々や文化を受け入れ、人々が自分らしく個性と能力を十分に発揮し、活力のある魅力的なまちづくりを目指すことで、他の都市との違いや優位性、独自の価値を持ち、市内外からの良好な評価を得ることが出来ます。

エリア別の文化芸術施策を展開し、文化創造都市を推進することで、「文化芸術のまち」を築き、本市の知名度や「まち」のイメージUPを目指します。

【「所沢ブランド」の確立】

「所沢ブランド」は、「地域資源」の効果的な活用を果たし、「まち」のイメージUPを図ることで、市民の誇りや愛着を醸成し、地域外から資金・人材を呼び込むという持続的な地域経済活動と連動することで創造されるものです。

現在建設中のござわサクラタウンを拠点とした「COOL JAPAN FOREST」構想を推進し、所沢の認知度、イメージ、魅力度、観光意欲度といった対外発信力を高めるとともに、実行力のある組織体制を構築するための人材の発掘と育成を図り、所沢ブランドの確立を目指します。



ところざわサクラタウン イメージ図

©KAJIMA CORPORATION
©1990-2017BY KENGO KUMA AND ASSOCIATES
©1990-2017BY 隈研吾建築都市設計事務所

※3…クリエイター…創造する人。創造的な仕事（芸術、著作、制作など）を行う人のこと。（例）ゲームクリエイター、サウンドクリエイターなど。
※4…文化創造都市…文化芸術の創造性を活かしたまちづくりを行う都市

「まち」のイメージUP

想定される取り組み	内容
文化活動に寛容なまちの醸成	多様な人々や文化を受け入れ、人々が自分らしく個性と能力を十分に発揮できる、活力のある魅力的なまちづくりを目指します。
エリア別のコンセプトで魅力UP	エリアごとの特色を活かした所沢文化圏を形成します。 ●新興都市エリア…ところざわサクラタウン、日本大学芸術学部、所沢カルチャーパークなど ●賑わいエリア…ミュージズ、航空記念公園、市民ギャラリー、PARCO、ワルツなど ●みどりと自然エリア…狭山丘陵、三富開拓地、県立芸術総合高校、早稲田大学人間科学部など
文化創造都市の推進	産業、ものづくり、観光、文化、スポーツ、国際交流などに関する多様な施策を一体的に推進し、まちのイメージの向上を図り、文化創造都市を推進します。

今後の取り組みのヒント

- まちづくりセンター、市役所ロビーなどの公共施設、民間店舗などに、お客さんが自由に演奏可能な楽器を置くとともに、店舗や病院にあるインテリア用ピアノを囲むロープ・パーテーションを取り払うなど、身近に楽器（音楽）を感じられるまちづくりを進めていきます。
ex.) まちなか楽器キャンペーン
- 外国人や市外の方など、幅広い方に所沢グルメの美味しさを知ってもらうため、国内線・日本発の国際線の機内食で、所沢産の原料を使ってもらい、国内外の方に所沢の魅力をPRし、まちのイメージの向上を目指します。
ex.) 所沢グルメを機内食に活用
(狭山茶パウダーをご飯に混ぜ込むなど)
- 婚活事業・ロケーションサービス事業・市街地活性化事業などのいいところを併せて、人生の門出を所沢が全面協力でお祝いし、市の魅力UP！を図ります。
ex.) ジモ婚☆地元で結婚式を挙げよう！
- 人気のあるカレーをベースとして、所沢名産品を取り入れながら、インパクトのあるカレーを開発し、所沢の認知度UPを促します。
ex.) ご当地カレー作り
(焼だんごカレーなど)
- ギネス記録にチャレンジし、市民に地元への愛着を高めてもらうとともに、市外へアピールし、まちおこしを図ります。
ex.) ギネス記録でまちおこし
(地産のお酒で同時乾杯人数など)



航空記念公園（並木）

「地域資源」の効果的な活用

想定される取り組み	内容
「発掘（再発見）」×「活用」×「PR」	地域資源として活用できる「モノ」、「場所」などを発掘及び再発見するとともに、「人材」や「組織」を育てながら、地域資源を活用する「機会」、「仕組み」、「行事」を構築し、PRしていきます。
アーティスト、クリエイターなどの文化芸術活動の支援	新しい文化が生まれる土壌づくりや未知の才能の発掘や育成とともに、若い感性を刺激する文化芸術活動の支援を図ります。
次世代に継承される文化プログラムの実現	2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に文化プログラムを実施し、次世代に継承される有形・無形の文化レガシーを創出します。

今後の取り組みのヒント

- アート思考の人材の流入、民間活力によるオシャレな景観づくりを図るため、店舗、企業内及び空き家に文化芸術活動・発表に使えるステージ・ギャラリー・サロンなどを設置し、その規模に応じて奨励金を交付します。
ex.) 所沢なら、アートで生活できますよ、事業
- 学校舎や体育館が使用されないことになった場合、建物再生の一環として、文化拠点（アートファクトリー＝芸術工場）として活用し、アーティスト、子どもたち、地域の方々などがさまざまなものを創出する場となることを目指します。
ex.) アートファクトリー事業
- 空き家などを活用して、アーティスト、クリエイターが交流する場となる共有スペースやビジネス展開できるようなサポートをする「インキュベーション^{※5}」施設の設置支援を行います。
ex.) アートビジネスサポート事業
- アーティストの卵が能力を試す登竜門として、デザインコンテストの開催を目指します。応募前のブラッシュアップ及び事後のアフターフォローの機会を設け、現役アーティストに作品を見てもらうことで、制作意欲の向上につなげます。また、受賞したデザインは市の事業のポスターなどに用いるなど、市民の目に触れるように計らいます。
ex.) デザインコンテスト事業
- ミュージズを活用した文化芸術活動サポート体制の強化を目指します。(相談窓口の設置、発表・練習場所の提供)
ex.) 文化芸術サポートセンター事業
- 新しい文化が生まれる土壌づくりのため、アーティスト、クリエイターなどから意見を聞く機会をつくります。
ex.) アーティスト、クリエイター意見交換会

※5…インキュベーション…設立して間がない新企業に国や地方自治体などが経営技術・金銭・人材などを提供し、育成すること。

参考 第5次所沢市総合計画実施計画書（2015～2018）における関連事業

本市総合計画に基づいて実施している取り組みの中で、基本方針Ⅱに関連するものを示します。

■「地域資源」の効果的な活用

事業名	内容	担当課
「所沢を動かす！」みんなのアイデアコンテスト事業	市の課題に対し、自由な発想による提案を広く募集し、優れた提案を実施することで、「所沢を動かす」という思いを市民と共有しながら、新たなまちづくりにつなげることを目指している。	経営企画課
地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業（基本方針Ⅲに同時掲載）	市内の製造業などの基盤強化と地域経済の活性化を図るため、市内事業者が連携し、新商品やサービスの開発や新たな販路の開拓、人材育成を図る際に、経費の一部を補助している。	産業振興課
所沢グルメづくり支援事業	市内の特産物や郷土料理による「所沢グルメ」の王座決定戦を開催し、市内内外に所沢の食材を周知するとともに、メニューを市内飲食店に普及させ、賑わいの創出につなげている。	商業観光課
空き店舗活用・新規創業支援出店補助事業	市内の商店街の振興と活性化を図るため、新規創業者を支援して、空き店舗の活用事業を始める者に、事業開始に必要な初期経費について補助している。	商業観光課
郷土の民俗芸能支援事業	市内各地域に受け継がれている伝統芸能に対する理解を深めるとともに、後継者の育成を図ることを目的とし、伝統芸能保存団体との共催で平成5年度より隔年で発表会を開催している。	文化財保護課
ふるさと研究活動事業（基本方針Ⅲに同時掲載）	生涯学習推進センター内に「ふるさと研究エリア」を整備し、「ふるさと所沢」の自然・歴史・芸術・文化・産業などの資料収集、調査・研究を進め、展示・講座・学習会などを通じて市民に伝えている。	生涯学習推進センター
滝の城跡整備事業	郷土の貴重な文化財である埼玉県指定史跡「滝の城跡」を恒久的に保存し、親しまれる史跡、郷土学習の場として活用を図るために整備をしている。	文化財保護課

■「まち」のイメージUP

事業名	内容	担当課
音楽のあるまちづくり事業	あらゆる世代の市民や市内を訪れる方に、うるおいと安らぎ、活力を与える「音楽のあるまちづくり」を推進し、音楽を演奏・聴く機会を常に身近なものとして定着させ、豊かな音楽文化が持続的に発展できるよう取り組んでいる。	文化芸術振興課
現代美術展（引込線）開催事業	現代美術作家が中心となって2年に1回のペースで「旧第2学校給食センター」を会場に展覧会を開催している。出品者には、市内内外の美術家（彫刻、立体、絵画、写真）が名を連ね、本格的な現代美術展として定着している。	文化芸術振興課

「所沢ブランド」の確立

想定される取り組み	内容
認知度、イメージ、魅力度、観光意欲度（対外発信力）を高める	所沢ブランドを総合的に情報整理し、「メディア戦略 ^{※6} 」により、所沢の認知度向上を図るとともに、アーティストやイベントなどを通して積極的に情報発信をします。
人材の発掘と育成	ブランドを確立するうえで効果的な組織体制を構築するために、人材の発掘と育成を図ります。
COOL JAPAN FOREST構想との連動	COOL JAPAN FOREST構想を通して、「善きふるさと所沢」を実感できる豊かな自然、伝統文化、特産品、地元企業が得意とするコンテンツなどを「クールジャパン」として国内外に発信し、所沢ブランドの浸透やブランド力向上を図ります。

今後の取り組みのヒント

- 観光資源を巡るだけでなく、名産品のつかみ取りや、狭山茶の手もみを体験してできたお茶をお土産に持って帰るなど、ツアー会社と連携して企画します。
ex.) 文化資源・観光資源を活かしたツアーの実施
- 「COOL JAPAN FOREST構想」と連携し、ロケーション環境に優れている航空記念公園をコスプレイヤーに開放し、撮影を自由に行ってもらうほか、ベストコスプレイヤーを決めるコンテストを開催します。
ex.) コスプレ博in航空公園

- スマホ片手に市内の文化資源・観光資源巡りなどができるガイドアプリを開発します。
ex.) 観光地巡りガイドアプリ、ロケ地巡りガイドアプリなど

- より多くの人々に質の高い芸術に触れる機会を提供し、地域社会を豊かにしていく活動を支える「アートマネジメント^{※7}」人材を育成します。（マーケティング力、企画力、構成力、実行力など）
ex.) アートマネジメント人材育成事業



こんざんじ 金仙寺（堀之内）

- 「COOL JAPAN FOREST構想」と連携し、市ゆかりのマンガ・アニメをPRしていくとともに、アニメ・イラスト文化を推進します。
ex.) アニとこフェスタ

※6…メディア戦略…伝えた内容（メッセージ）や対象に応じ、テレビ、ラジオ、雑誌、WEBサイトなどの媒体（メディア）をどのように組み合わせるかを戦略化すること。
※7…アートマネジメント…美術、音楽や演劇などの芸術活動を支援する際の方法論のこと。

■「まち」のイメージUP

事業名	内容	担当課
東京オリンピック・パラリンピック推進事業	「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の開催にあたり、キャンプ地や事前大会の誘致など、開催に向けた取り組みを進め、同大会の成功に寄与するとともに、市の活性化や文化交流などにつなげていくことを目指している。	企画総務課
観光振興対策事業	所沢の魅力をも市内外に広くPRし、まちに賑わいが生まれ地域の活性化を図るとともに、市のイメージアップや観光客の誘致を図るための活動をしている所沢市観光協会に対し補助をし、横断的な個別ブランドの把握をしている。	商業観光課
観光拠点等施設整備事業	市内の観光スポットをより魅力的に維持・発展させ、観光客の利便性を高めることを目的として、観光案内板修繕、桜並木ライトアップなど拠点となる施設の整備をおこない、所沢の都市イメージの創造を図っている。	商業観光課

■「所沢ブランド」の確立

事業名	内容	担当課
所沢ブランド推進事業	市内外から「住みたい」、「住み続けたい」思いを育む「誰もが選ぶまち」へのイメージアップを図ると同時に、企業・事業者には「業務の拠点としたい」良好なイメージを提供し、地域経済の活性化を目指している。	企画総務課
COOL JAPAN FOREST構想推進事業 (基本方針Ⅲに同時掲載)	所沢市と㈱KADOKAWAが共同プロジェクトとして取り組んでいる、文化と自然が共生した、誰もが「住んでみたい」「訪れてみたい」地域づくりを進める構想を推進している。	経営企画課
所沢市観光コンシェルジュ養成事業	所沢市の文化・歴史を語り継ぐことや、市内外から訪れる方へ所沢のPRができるように、市民ボランティアによる観光ガイドを育成し、実際にガイド事業を実施している。	商業観光課
観光魅力発信対策事業	所沢市への観光客の増加を図ることを目的として、観光マップやガイドブック、所沢市観光大使やロケーションサービスの推進、プロスポーツチームの支援を通じて、本市の魅力や自然、文化、史跡などの観光情報をPRしている。	商業観光課
広報紙発行事業	市民に密着した生活情報を的確に適切な時期に市民に伝達することで、市民生活における利便性が向上するとともに、市が進めて行かなければならない行政課題などをわかりやすく提供し、市民の市政に対する関心を高めている。	広報課
ホームページ運用事業	多様化する市民のライフスタイルに柔軟に対応し、時間に制約されることなく迅速に提供できるメディアであるホームページを積極的に活用し、市政情報を分かりやすく市民に提供することを目的として、発信すべき情報を作成し公開している。	広報課
広報CATV番組制作・放映事業	広報紙やホームページ以外のメディア(CATV)を媒体とした情報伝達方法として利用することで、行政情報をよりわかりやすく紹介し、広く市民などに情報提供している。	広報課

基本方針Ⅲ
文化をつむぐ
—多様な出会いから文化をつむぐ—

所沢市にはさまざまな文化資源があります。世界に名だたるピクセン・村松フルートといった文化芸術系民間企業、日本大学芸術学部・県立芸術総合高等学校といった文化芸術系教育機関、国内外で芸術性が高く評価されているNBAバレエ団といった文化芸術団体、埼玉西武ライオンズ、埼玉プロンコスという2つのプロスポーツチームなど、産学ともに豊富な文化系機関があります。

また、本市にはミューズという個性あふれる文化施設や航空記念公園という広大な公園、狭山丘陵・狭山湖といったみどりあふれる景勝地があります。

さらに、異文化交流に目を向けると、アメリカ合衆国のイリノイ州ディケイター市、中華人民共和国の常州市、大韓民国の安養市の3つの都市と姉妹都市締結をしていて、活発な国際交流が行われています。

しかし、こういった特色あふれる豊かな文化的要素を持ちながらも、その魅力の活用という点において、いまだ大きな課題を残しています。特に、首都圏30km圏内という土地柄もあり、個々に独立した魅力だけでは、市民の文化的嗜好が都心に向かう現状に歯止めをかけるのは困難であると言わ

ざるを得ません。

基本方針Ⅲでは、地域の文化力を活かした新たな価値や魅力を創出するため、それぞれを有機的に連携させ、既存文化を活性化するとともに、新たな文化を創造します。

所沢市が「文化をつむぐ」もの —多様な出会いから文化をつむぐ—

文化を「つむぐ」ものを対象別に区分し、それぞれの対象を「つむぐ」こと、すなわち「多様な出会いをつむぐ」ことにより、さまざまな化学反応を生み出し、所沢独自の文化を醸成していき、後世につながる文化をつむぐまちの実現を目指します。

【人と文化をつむぐ】

「異文化交流」「異業種交流」「文化団体交流」…人と文化をつなぐ交流はさまざまです。それぞれの特徴を活かしながら、分野を超えた多様な出会いを創出し、新たな文化の形成と地域の活性化につなげていきます。また、「世代間交流」を通じて、次世代につながる文化の継承に向けた取り組みも推進していきます。多様な出会いから生まれた文化を育みながら、地域の文化力を活かした新たな価値や魅力を創出し、後世につながる文化をつむいでいきます。

【産学官の架け橋】

㈱KADOKAWAの進出に代表されるように、所沢市は産業立地の優位性を活かし、土地利用転換によって産業用地を創出する方向性を打ち出しており、今後、より一層の産業の充実が見込まれます。また、学術機関においては、日本大学芸術学部や県立芸術総合高等学校といった文化芸術に特化した教育機関や、早稲田大学といった日本有数の総合大学も内在しています。

また、周囲を見渡せば、隣にはメガロポリスTokyoがあります。そこに密集する企業・学術機関は所沢のそれを遥かに凌駕しています。これらの「産」「学」、そして、「内」「外」と連携し、所沢市の文化芸術施策を展開します。そして、誰もが住みたくなる文化的なまちを目指します。

【みどりがつなぐ「野外文化」】

航空記念公園や狭山丘陵、狭山湖などのみどり豊かなロケーションと文化を結びつけ、他の自治体に類を見ない「野外文化」を促進します。みどりあふれるロケーションの中で、演劇、音楽、ワークショップ、はたまた会議!? など…さまざまな文化芸術活動を行えるようなインフラを整備します。

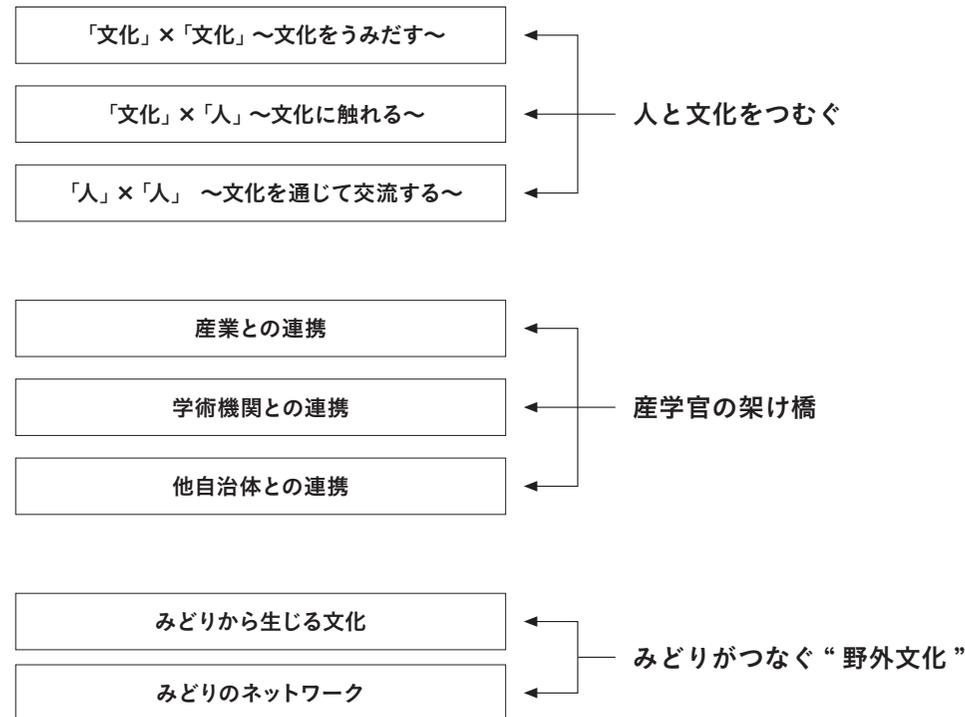
また、野外文化の担い手として、教育分野においても子どもたちが積極的に自然と触れ合える環境を整えます。「所沢「野外文化」というワン・アンド・オンリーな存在として、所沢のみどりがつなぐ野外文化を発信します。

人と文化をつむぐ

想定される取り組み	内容
「文化」×「文化」 — 文化をうみだす —	地場で展開されているさまざまな文化の交流を促進するために、文化人、文化団体の有機的な交流の場づくりを推進します。そして、異なるジャンルの文化と文化の化学反応により所沢独自の文化を生みだします。
「文化」×「人」 — 文化に触れる —	市民が文化芸術と交流できる環境を作ります。そのためにも、所沢で文化芸術活動を行っている団体の支援、文化芸術と触れ合える場所を整備します。また、どんな文化でも受け入れられるような“懐の深い”行政を目指すべく、文化的な規制緩和を推進します。
「人」×「人」 — 文化を通じて交流する —	市民が文化芸術を通じて交流する場所を作ります。SNSなど情報が進む社会ではありますが、郊外型文化圏という特殊性を逆手にとって、世代間の交流なども含めた有機的な出会いが生まれるインフラ整備を推進します。

今後の取り組みのヒント

- 市民が文化芸術に触れるスペースや文化芸術を通じて交流できるスペースを創出するため、空き家・空き店舗などのさまざまな資源を活用します。
ex.) まちなか美術館、まちなか劇場、文化的コミュニティスペース、空き家美術館
- 子どもたちが伝統芸能や音楽、演劇などの文化芸術全般に触れる機会を増やします。
ex.) 小中学校de文化芸術講座
- 表現者に発表場所・稽古場所を創出します。空いている施設とのマッチング（種類の異なったものを組み合わせること）を図るためにも、積極的な情報発信を行います。
ex.) 公共施設の空き部屋使用事業
- 芸術教育を実践します。
ex.) 演劇や音楽、美術などのさまざまな文化活動を教育の現場に導入
- 航空記念公園に来園した人たちなど、その場にいた人で、シアターゲーム^{※8}を展開し、身体表現を通じたコミュニケーションを楽しみ、人と人の新たな出会いと交流を生み出します。
ex.) 野外チャレンジ
- 公共施設同士で連携することで、交流の場を創出します。また、施設だけでなく市内で行われるイベントなどについても、行政の枠を超えて、コラボレート（共同して行うこと）することで、より活気のある市を目指します。
ex.) ミューズ×航空記念公園、ところざわまつり ×市民フェスティバルなど
- 実証実験スペースを創出します。文化に係るさまざまな人が相互に交流し、新たな試みが出来るような実証実験スペースを創出します。
ex.) 実証実験スペース事業



所沢市の緑豊かなロケーション

※8…シアターゲーム…演劇を学ぶ人の表現力・即興力・コミュニケーション力をゲーム感覚で、楽しみながら、引き出すために考案された手法で、近年、欧米では、演劇だけでなく、教育機関や社会人の研修などで広く利用され、効果を上げている。

みどりがつなぐ「野外文化」

想定される取り組み	内容
みどりから生じる文化	所沢市ならではのみどりから派生する文化を創出し、「野外文化」を多角的に促進します。特に、所沢には、「観るみどり」が多く存在し、そのみどりの中でさまざまな文化活動を行えるような土壌を整備します。
みどりのネットワーク	みどりは市内で完結するものではありません。みどりは所沢という枠を超えて、隣接する自治体とのつながりを生み出します。みどりを景観として捉え、それらを文化的・有機的に結び付けることで、所沢独自の野外文化に昇華します。

今後の取り組みのヒント

- みどりを通じて周辺自治体との文化的提携を推進します。「茶畑」や「三富新田」や「武蔵野の雑木林」といったみどりの財産は一自治体に留まるものではありません。その財産を共有する自治体で協力して、文化的な施策とつなげます。
ex.) みどりのふれあいウォーク～みどりのネットワーク～
- 野外文化の拠点を整備します。
ex.) 狭山湖畔キャンプ場、カルチャーパークキャンプ場など
- 「所沢×野外」…所沢市で行うあらゆる催事を野外で行います。日本で一番野外イベントが多い市を目指します。
ex.) 青空議会…スイスの“ランツ・ゲマインデ”^{※10}のような青空の下での議会
- 野外文化の促進に向け、民間企業との積極的な提携を目指します。
ex.) アウトドアブランドとの提携、アウトドアレジャー施設との提携・誘致
- 「地産地消」を推進します。お茶に代表される所沢産の作物の地産地消を積極的に推進します。
- 野外の人が集まる場所でワークショップを開催します。
ex.) 駅前朝活ワークショップ、航空記念公園ワークショップなど
- 駅前文化活動を推進します。
ex.) 駅前『地平を駆ける獅子を見た』クラシックVer.を演奏など

産学官の架け橋

想定される取り組み	内容
産業との連携	産業の誘致、連携を行います。人的交流を図りながら連携意識を高め、地域文化及び地域経済の活性化につなげていきます。産業については、市内にとらわれず幅広い企業との提携を行います。
学術機関との連携	「官学連携に関する基本協定書」を締結した学校をはじめ、市内にある学術機関と連携した事業を展開します。市が持つ広報媒体を文化芸術系学術機関と提携して行うなど、積極的に“若いチカラ”と連携します。
他自治体との連携	創造都市ネットワークへの加盟や県南西部地区（ex. ダイアプラン4市）との連携を視野に入れ、他自治体との文化交流を行います。そして、他自治体が持っている“イイモノ”を積極的に取り入れます。

今後の取り組みのヒント

- 文化芸術情報システムを構築し、市民と産業、学校、市の架け橋を作ります。
ex.) 所沢市内の文化芸術団体からの要望（発表の場や作品の提供など）をデータベース化し、産・学・官とのマッチングを行います。
- 他自治体との文化交流を積極的に行います。県南西部地区などの近隣自治体のみならず日本で76の自治体が入っている創造都市ネットワークへの参加をすることで、他自治体との文化交流を積極的に行います。
- 市内学術機関、市内産業とタイアップし、公共施設を文化的な空間にします。市内公共施設が抱えている課題として、施設利用者の高齢化があります。その要因の一つともいえるのが、民間の交流スペースとの居心地の差です。若者が交流する場所は所沢市内に留まりません。その中から、“所沢”というアンサーを導くために、公共施設を文化的な空間へと変貌させます。
- 産業とタイアップして、市政情報をわかりやすく発信します。産学と連携することで、市の広報を刷新し、魅力的でわかりやすい情報発信を目指します。



所沢ゆり園（上山口）

■産学官の架け橋

事業名	内 容	担当課
COOL JAPAN FOREST構想推進事業 (基本方針Ⅱに同時掲載)	所沢市と株KADOKAWAが共同プロジェクトとして取り組んでいる、文化と自然が共生した、誰もが「住んでみたい」「訪れてみたい」地域づくりを進める構想を推進している。	経営企画課
所沢市ふるさと応援寄附拡充事業	”ふるさと所沢”に貢献したい、応援したい思いを生かせる寄附制度を拡充している。	財政課
新規創業ビジネスプランコンペ事業	新規創業を目的とするビジネスプランを公募し優秀で意欲的な創業者を発掘するとともに、報奨金を支給して市内での創業を奨励し、商工業の振興を図っている。	産業振興課
企業誘致活動推進事業	工業的土地利用の適地選定・市内外の事業者の誘致・移転などの調査・研究をし、実現手法を明らかにしている。	産業振興課
地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業 (基本方針Ⅱに同時掲載)	市内業者の基盤強化と地域経済の活性化を図るため、新商品やサービスの開発及び新たな販路の開拓などを行う経費の一部を補助している。	産業振興課
中心市街地にぎわい創出事業	中心市街地にぎわい創出のため、集客事業や資源を活かした取り組みなどを支援している。	商業観光課
中心市街地商業活性化事業	商業振興や来訪者増加、市街地の活性化を図っている。	商業観光課
ふるさと研究活動事業 (基本方針Ⅱに同時掲載)	ふるさと研究活動事業の一環として、市内に本社のある株式会社ビクセン協力のもと、星空や宇宙を身近に感じるイベントの「ところざわ星空フェスティバル」を開催している。	生涯学習推進センター

■みどりがつなぐ“野外文化”

事業名	内 容	担当課
狭山湖周辺人道橋整備事業	狭山湖北東部に位置する緑地帯を縦断する市道5-4号線に景観に配慮した人道橋を整備し、散策者及び観光客にみどりの保全と創出の理解を促す。	みどり自然課
所沢カルチャーパーク築造事業	武蔵野の雑木林の保全・活用を図り、市民が身近な自然とふれあう場となる自然環境保全型の総合公園として整備を進めている。	公園課
里山保全地域等指定整備事業	市内に残された貴重な緑地を保全するため、里山保全地域などの指定を行うとともに、相続や開発などの事由により消失のおそれがある緑地の公有地化を行っている。	みどり自然課
みどりの街並み創出事業	生活環境の向上を求める市民意識の高まりに応え、地域に花とみどりによって潤いとやすらぎを提供するため、市民との協働による花とみどりの美しいまちづくりを推進して、潤いとやすらぎのある都市づくりを目指している。	みどり自然課

参考 第5次所沢市総合計画実施計画書（2015～2018）における関連事業

本市総合計画に基づいて実施している取り組みの中で、基本方針Ⅲに関連するものを示します。

■人と文化をつむぐ

事業名	内 容	担当課
所沢こどもルネサンス開催支援事業 (基本方針Ⅰに同時掲載)	子どもたちの感性や表現力を養う文芸、イラスト、合唱などの事業を開催し、青少年教育の振興を図っている。	社会教育課
中学生海外文化交流派遣事業	将来の所沢を担う中学生の国際感覚や国際認識を高め、国際的視野から所沢市を見つめてもらうことで、郷土愛を持ち、国際社会に対応できる人材の育成を図っている。	学校教育課
国際フォーラム開催支援事業	外国籍市民との共生意識啓発のため、毎年開催している。	文化芸術振興課
国際交流推進事業	国際交流を推進するさまざまな事業を実施し、市民の共生意識を高めている。	文化芸術振興課
海外都市学生交流事業	所沢市では姉妹都市交流の一環として、派遣事業と受入事業を一年毎に実施している。	文化芸術振興課
音楽活動支援事業	音楽を通じた出会いの場を支援している。	文化芸術振興課
親子音楽鑑賞教室開催事業 (基本方針Ⅰに同時掲載)	学校の体育館で気軽に音楽に接し、情操を育み、親子のふれあいを深め、鑑賞のマナーを学ぶ場としている。	文化芸術振興課
文化活動支援事業	市民の芸術・文化活動の活性化を促し、市民文化の向上と、文化性の高いまちづくりの進展を図っている。	文化芸術振興課
文化団体援助事業	文化芸術との出会いの場を支援している。	文化芸術振興課
図書館利用推進事業	図書館に親しみをもって有効に利用してもらうため、情報を広く提供し、読書活動の推進及び利用の拡大を図る。	所沢図書館

取り組み	事業内容
文化×文化	異文化・他文化交流、多文化共生の推進 中学生海外文化交流派遣事業 国際フォーラム開催支援事業 国際交流推進事業 海外都市学生交流事業
文化×市民（団体）	文化芸術との出会いの推進 所沢こどもルネサンス開催支援事業 図書館利用推進事業 文化団体の活動支援 音楽活動支援事業 文化活動支援事業 文化団体援助事業
市民（団体）×市民（団体）	文化芸術を通じて市民が交流できる場所づくりの推進 親子音楽鑑賞教室開催事業

ビジョンの推進と 検証体制

所沢市は、文化芸術活動を行う市民の自主性を十分に尊重し、文化芸術の振興を図っていきます。施策の推進にあたっては、市民、文化芸術団体、アーティスト、学校、企業、市の関係機関などと連携・協力をしながら行います。

Promotion and progression check systems of the VISION

文化芸術推進のための 横断的な庁内推進体制の整備

文化芸術の分野は、広範で多様な領域にわたるため、所管も多岐にわたっています。そのため、都市の創造性を高め、魅力を発信していくブランド戦略として文化芸術の施策を展開していくためには、多様な文化との連携の中で、総合的に取り組む庁内の横断的な推進体制を整備する必要があります。とりわけ、文化芸術振興に関連の深い、企画、産業、観光、教育などの担当部局との連携を強化します。

豊かで魅力ある市民文化を創造していくため、芸術・文化活動の発表や文化情報交換の場を提供していくことが望まれます。

将来的にはその役割にとどまらず、文化芸術関係者のプラットフォームやネットワーク構築の場として機能していくことが求められており、所沢の文化芸術振興におけるカルチャー・アート・セクターとしての機能構築を目指します。

文化芸術の推進を図る関係団体などの連携

市民、文化芸術団体、アーティスト、NPO、学校、企業、市の関係機関などとの連携を図り、協力しながら、文化芸術活動を支援するためのネットワークを構築し、協働して文化芸術振興施策を推進します。

ビジョンの進捗状況の検証体制

本ビジョンでは、20年後の姿として、現在よりも、市民が本市の文化芸術の豊かさを実感し、誰もが住み続けたいと思えるようなまちづくりを目指します。

本ビジョンの進捗状況の検証については、「所沢市文化芸術推進会議」を設置し、学識経験者や市民などの意見も伺いながら、ビジョンの方向性に沿った新たな文化芸術施策を推進していくとともに、本ビジョンの進捗状況を定期的に検証していきます。

また、本ビジョンについては、文化芸術施策を取り巻く社会状況の変化などがあつた場合には、必要に応じて柔軟に見直しを行うものとします。

本ビジョンに基づく文化施策の検証

行政機関と比べて専門性と継続性、迅速な施策展開、独自の資金確保という強みを活かし、国内・国外の優れた芸術と気軽に触れあえる場や、個性

epilogue

これからの所沢に向けて

アメリカの作家ロバート・クレーアーの小説「ユニヴァーサル野球協会」は、野球カードゲームの空想世界に没入する男の話です。お気に入りのチームを創作し、シーズン中の全試合を一人、部屋の中で夜な夜な敢行しています。お気に入りの選手、その癖や性格までを創り上げインプットし、たった一人で全ての年間ゲ

ームスコアを記録し、それを半世紀余りも続けているのです。そのめり込み方たるや、常人の域を遙かに超えるものでした。その本を読んだのは30年余りも昔のことです。「まったく現実離れた話じゃないか」と感じた記憶がありますが、それが現代に至って、今、我々が日常目撃している風景は、これと然したる差が無いことに気がついて愕然とします。

街頭でも電車の中でも、人々はメディア端末の中で展開する自分のオリジナルのゲーム世界やニュースの収集に夢中です。下手をすれば、電車一両の箱の中の大半の乗客が、手にした端末から思い思いの世界に潜り込んでしまっています。しかし、ここでそれを由々しき事態として指摘しようとするわけではありません。これもまた、高度情報化社会がもたらした、確かな新しい現実の一面であると言いたいのです。

今回、我々がビジョン策定の機会に「所沢」という土地柄を通じて見えてきた文化芸術活動もまた、こうした情報世界の変化の影響から逃れられるものではありません。手工業からオートメーションの時代に至って

生産力が飛躍的に向上したように、文化芸術という、本来はアルティザン（職人の行為から発した活動）もまた大量生産と情報化の洗礼を受けて新たな局面を迎えようとしています。

「イノベーション」^{※11}による飛躍的な環境の変化に戸惑いをみせている旧世代とは違って、若い世代は易々とネットワークの恩恵を最大限に生かし、自在に、活動を展開しています。路上で展開される音楽ライブや演劇的パフォーマンスは、こうした情報を入力した一群の聴衆の前で前触れなく開始されます。それは一見掴みどころがなく、突発的な出来事のようには見えませんが、実は見えない情報の網の目ですっかりとつながっています。あたかも地面の下で伸び進む地下茎のように。かくして、若い世代の想像力や行動力にはしばしば圧倒されてしまいます。

とはいえ、こうした耳目のみに注意を払ってばかりいては、その本来の姿を掴み取ることは出来ないでしょう。実は表層的な変化を取り扱えば、文化芸術を楽しむとする若い世代の創造的マインドは、先人たちの振る舞いとさほど変わることもなくつながつているように思えるのです。人々の「新しいものを生み出したい」、「新たな物語をつむぎたい」という思いは、今も昔もなく、日常生活の傍らで湧きあがってくる感情なのではないでしょうか。





TOKOROZAWA MAP



-  国道
-  主要道
-  自動車専用道路・I.C
-  一般県道
-  線路

三ヶ島まちづくりセンター
三ヶ島葎子資料室

芸術総合高等学校
早稲田大学

狭山丘陵
狭山湖
DOTANI KAYA

所沢・武蔵村山・立川線
西武球場前
西武園地

岩崎鯉獅子舞
下山口
子ども写生大会
遊園地西
吾妻まちづくりセンター

新所沢
新所沢まちづくりセンター
まちなかコンサート (PARCO)
PARCO
ひまわり畑コンサート
小手指
秋草学園短期大学
所沢航空記念公園

新所沢東まちづくりセンター
音まちコンサート (市役所)
所沢市民文化センター ミュース
市民文化フェア

株式会社村松フルーツ製作所
並木まちづくりセンター
引込線
引込線

くぬぎ山コンサート
富岡まちづくりセンター
株式会社村松フルーツ製作所

航空公園
市民文化フェア
重松流祭ばやし
野老澤町造商店

所沢市民文化センター ミュース
ところざわ星空フェスティバル
KADOKAWA (仮称)ところざわサクラタウン

日本大学芸術学部
さいたま・ふじみ野・所沢線
黄林閣

三富新田
所沢・福業・狭山線
開跡自動車道

株式会社ビクセン
松井まちづくりセンター

所沢カルチャーパーク
柳瀬まちづくりセンター
戦国滝の城まつり

東所沢
所沢・青梅線

国道463号
国道254号